

幸福度に関するパネルディスカッション報告

平成24年 6月 29日
内閣府経済社会総合研究所
幸福度研究ユニット

幸福度指標を作成する自治体、NGOを招いたパネルディスカッションを開催し、幸福度指標の在り方について意見交換を行った。

<パネルディスカッションの概要>

- 「幸福度に関するパネルディスカッション」
- 開催日時：平成24年3月19日（月）10～12時
- 開催場所：三田共用会議所（東京都港区三田2丁目1-8）
- コーディネーター
西村 周三（国立社会保障・人口問題研究所所長）
- パネリスト
山内 直人（大阪大学教授、内閣府幸福度に関する研究会座長）
西川 太郎（荒川区長）
満田 誉（福井県副知事）
芦谷 恒憲（兵庫県企画県民部ビジョン課主幹）
袖川 芳之（電通総研部長・京都経済同友会の指標作成担当）
- 参加人数：126名

<フライヤー>

内閣府経済社会総合研究所主催

「幸福度に関するパネルディスカッション」

主催：内閣府経済社会総合研究所
日時：平成24年3月19日（月）
10時～12時
場所：三田共用会議所（東京都港区三田2丁目1-8）
参加費：無料
定員：100名

【プログラム】

10:00～10:05	開会挨拶
10:05～10:15	主旨説明（コーディネータ） 西村周三 （国立社会保障・人口問題研究所所長）
10:15～11:30	パネリストの報告 (1) 山内直人 （大阪大学教授、内閣府幸福度に関する研究会座長） (2) 西川太郎 （荒川区長） (3) 満田誉 （福井県副知事） (4) 畑正夫 （兵庫県企画県民部ビジョン局長） (5) 袖川芳之 （電通総研部長・京都経済同友会の指標作成担当）
11:30～12:00	全体討議・質疑
12:00	閉会

1. 主催者挨拶

内閣府経済社会総合研究所 次長

堀田 繁

幸福度研究については、新成長戦略に基づく閣議決定された文書の中で、政府が幸福度研究を進めていくということが決まっています。それ以前から、ヨーロッパを中心に、フランスのサルコジ大統領から、従来のGDPだけではなくて、幅広く国民の幸せを考える指標のようなものをつくってはどうかという提案があり、OECD、あるいは国連でも研究が始められ、日本でも一昨年から研究が始まっています。

昨年の12月初めに経済社会総合研究所とOECDが共同で、アジア地域における幸福度研究についてシンポジウムを開催させていただきました。私自身、こうした取り組みは単に国際的な動きだけではなくて、国内でも地方自治体を中心に幅広くご議論いただく機会が必要ではないかと思っていました。幸いながら、本日、そういう機会を持つことができた次第です。



今日は、さまざまな地方自治体の関係者、シンクタンクの方にご出席いただいているということで、ぜひ、皆さんの方からもご議論、ご意見を拝聴できればと思っています。今回のパネルディスカッションの進行役、コーディネーターは、国立社会保障・人口問題研究所の西村先生にお願いしております。続きまして、幸福度指標の試案についてご報告いただきます大阪大学教授の山内先生です。次は、荒川区における取り組みをご紹介します荒川区長の西川様です。続きまして、福井県の副知事の満田様です。兵庫県の企画県民ビジョン課主幹の菅谷様です。最後に、京都経済同友会の幸福度指標の作成に携わっておられます電通総研の袖川部長です。今日はよろしくお願いたします。

2. 主旨説明

国立社会保障・人口問題研究所 所長
西村 周三

それではパネルディスカッションを開催したいと思います。

幸福度研究について、できるだけ簡単に、追加的なお話しをすると、政府は昨年、新成長戦略を決めて、幸福度研究の推進ということをやっています。さらに、昨年12月に東京で内閣府及びOECD共催で、幸福度に関するアジア太平洋コンファレンスというのを開催いたしました。実は私はそれに先立って、ヨーロッパに10月に開催された同じようなコンファレンスに出席してまいりました。この後、今年の10月にニューデリーで、正式名称では『「統計、知識及び政策」に関する第4回OECD世界フォーラム』というものが行われます。



このような流れの中で、山内先生には全体の動向のお話をお願いしています。同時に、各自治体が随分熱心に指標づくりを作成しておられるということを知っています。もとより、全国の自治体の動向すべてを把握しているわけではございませんが、最近、私の研究所では、特に人口問題、人口減少社会、あるいは少子社会、高齢社会といったことについて関

心が高まる中で、いろいろな地域でお招きを受けて話をさせていただきます。その時に一番わかることは、日本は一つではないということです。日本は、1億数千万人の国でございますが、本当に地域によって様子が違います。

一例を挙げると、高齢社会ということに関して、東京では大きなメディアが大変だ大変だと騒いでいるわけですが、いろいろな地域を訪れると、例えば過疎地域でも、随分元気に高齢者が活発に働いておられて、幸せな生活をしているという事象を拝見することができます。

日本の社会では今、どうしてもテレビ等のメディアが中心になっていろいろと話をする傾向があり、その影響を受けます。一例を挙げると、今この日本では過去大勢でお年寄りを支えるおみこしから、今は騎馬戦になり、将来は一人一人が一人を支える肩車型の社会になるという話をされます。しかし



現状は、そういう単純な数で見ると、相当多くの地域で既に肩車に近いところがたくさんあります。しかし、そこで皆さん、大変元気でございます。

少子化についても、いろいろな形で新しい対応をしていて、それが恐らく若い人の幸せ、将来に対する幸せが子どもさんを多くつくるというような現象にもつながっているということを、私は今所属している研究所の活動を通じて、全国の動向を勉強させていただいております。

そういうことで、きょうはいろいろな角度から自治体等における先進的な取り組みをご紹介いただき、そして全体で知見を共有するということをさせていただきたいと思っております。

短い時間ですが、それぞれの皆さんの報告が終わった後、自由闊達なご意見の交換をさせていただきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

それでは順番にお話をいただきたいと思います。

最初に、幸福度に関する研究会報告ということで、内閣府の作業で座長をお願いした山内先生のお話をお願いしたいと思います。よろしく願います。



3. 幸福度に関する研究会報告 —幸福度指標試案

大阪大学教授

内閣府幸福度に関する研究会 座長

山内 直人

私は、本業は経済学とか財政学ですが、一昨年の12月に内閣府で幸福度に関する研究会というのが立ち上がりまして、座長を務めさせていただくことになりました。昨年12月には報告書が取りまとまっており、ホームページでもダウンロードできるようになっていますが、私の役割は、そのエッセンスを15分間で紹介することです。前置きを言っていると時間がなくなるので、いきなり本論に入りたいと思います。



まず、幸福度指標とは何かということですが、エッセンスだけ言うと、『幸福度を具体的に見えるようにさまざまな指標であらわしたものである』ということで、そういう指標の大系を想定しています。

個々人の幸福をある程度、地域、時系列で比較可能にした一種の物差しということですから。評価のためのツールとして使われることを想定しています。

幸福度指標とは何か？

幸福度指標とは何か？

- * 幸福度指標とは、幸福度を具体的に見えるように各種指標で表したものである。
- * すなわち、個々人の「幸福」をある程度、地域、時系列で比較可能にした物差しであり、評価のためのツールである。



背景

- * GDPを超えた指標である幸福度指標の作成が、日本だけでなく、欧州、北米、オセアニア、そしてアジアの国々で進んでいるという国際的動向。
- * 我が国においては、特に所得の増加にも関わらず主観的幸福感が低いという主観的幸福を巡る我が国固有の課題。



幸福度と言えば、最近はずーたんを思い浮かべると思いますが、欧米でも、あるいは発展途上国でも、いろいろなところで幸福度の指標の作成が行われています。日本の場合は、先進国で1人当たり所得が高いにもかかわらず主観的な幸福感が低い、幸福を感じられていないのではないかという議論があり、そういったことも幸福度指標を開発する背景にあるのではないかということです。

幸福度指標をつくることにどういう意義があるのかということですが、「幸せ」に光を当てることによって、これまで政策などで焦点を当てられることが非常に少なかった「個人がどういう気持ちで暮らしているのか」という気持ちの有り様に注目することだどこの報告書では考えています。

日本における幸福度の原因・背景・要因を探ることにより、国、社会、地域が人々の幸福度を支えるに当たって、いい点、悪い点、あるいは改善した点、悪化した点を明らかにすることができるのではないのでしょうか。自分の幸せだけでなく、社会全体の幸せ、幸福を深めていくためには、国、社会、地域がどこを目指そうとしているのかということも皆で議論する、そういう手がかりを提供することができるのではないか、ということを考えています。

政府が進める幸福度の指標作成作業ですから、政策との関係がどうなっているのかというのが当然問われるわけですが、実証に基づく政策に資するという観点から、指標によって明らかにされた事実に対して、政策の優先順位づけや政策の改善を提案することを促すことができるのではないか。人々の幸福度を高めているのか、阻害しているのかという観点から政策をレビューして、政策評価のもう一つの物差しとして指標を提供することが

幸福度指標作成の意義

* それは「幸せ」に光を当てることによって、これまで政策などにおいて焦点を当てられることがなかった「個人がどういう気持ちで暮らしているのか」という気持ちの有り様に着目することにある。より具体的には二つある。



✓ 日本における幸福度の原因・要因を探り、国、社会、地域が人々の幸福度を支えるにあたり良い点、悪い点、改善した点、悪化した点は何かを明らかにする。

✓ 自分の幸せだけでなく、社会全体の幸せを深めていくためには、国、社会、地域が何処を目指そうとしているか、目指していくのかを皆で議論し、考えを深めることが不可欠であり、その際の手がかりを提供する。



* 政策との関係では、実証に基づく政策立案(evidence-based policy-making)に資する観点から、指標によって明らかになった事実に対して政策の優先順位付けや政策の改良、新たな政策の提案を促すことに意味がある。

できるのではないかと、そういう趣旨であります。

この研究会を実施している、まさにそのときに東日本大震災が起きました。研究会の検討自体も一時中断したわけですが、そういう中で被災者の方々、あるいは被災地以外でも社会的に孤立した人々、あるいは日本に暮らす多くの人々が将来の希望や幸福を感じることができるようにするために何を優先すべきかということを検討するということで、この幸福度指標が役に立つのではないかとというように考えて、検討を再開して報告を取りまとめたということです。

ですから、この報告書の中には、そういう非常に大きなまれにあるような大災害を想定したときの幸福度の考え方も、一応インプリシットには入っているというようにお考えいただければと思います。

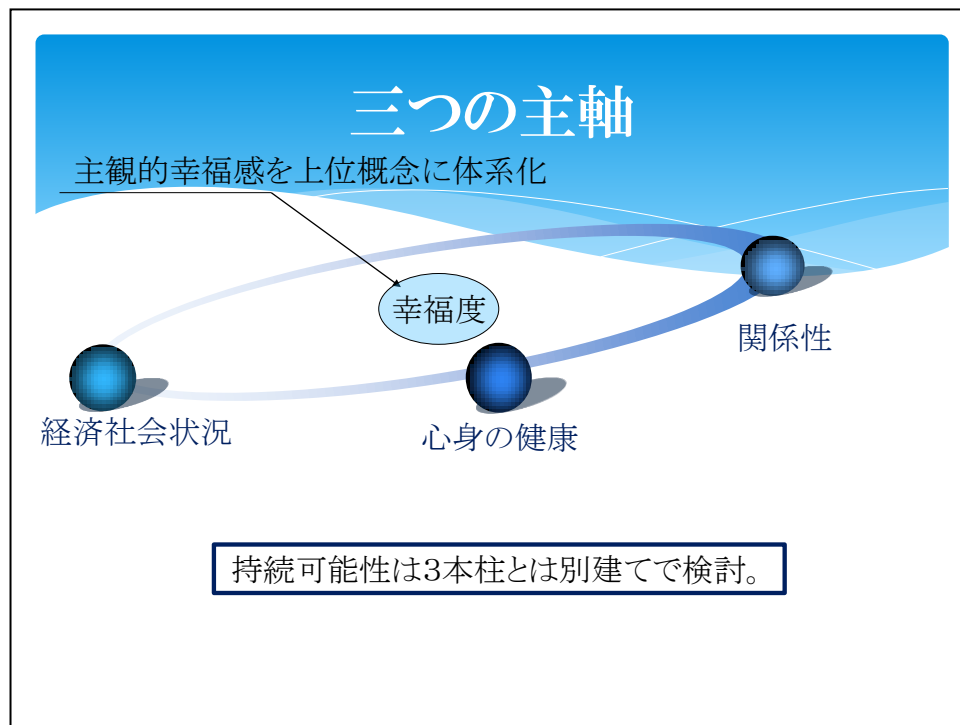
東日本大震災

*** 被災者の方々、社会的に孤立した人々、さらには日本に暮らす多くの人々が、未来の希望や幸福を感じることができるようになるために何を優先すべきかを検討するとき、当研究会において検討している幸福度の考え方や指標が政策立案の際に役立つことを願っている。**

具体的に、どんなことを考えているかということですが、幸福度に、あるいは主観的な幸福感に影響を与えるような領域として、3つの主軸を想定しています。

1つは経済社会状況です。これは所得であったり、資産であったり、住宅であったりということです。それから2番目は心身の健康です。さらに3番目が関係性です。この3つの指標群、領域が、主観的な幸福感を決める上で非常に重要な役割を果たしているのではないかと整理をしています。





我々の検討の中で、主観的な幸福感を判断する上で重視する項目というのをアンケート調査等で見てみると、男女あるいは年齢層、つまりライフステージによってかなり違うのではないかとわかってきました。

子どもとか若者にとっては友人関係が非常に重要です。それから大人になり、やがて結婚して家族を持つと、家計あるいは家族というものが最も重視されます。そして、だんだん年をとってくると、今度は健康が気になり、健康が最も重視されます。これは日本に限らないかもしれませんが、我々の研究会では、人口構造がどんどん変わっている日本においては、こういうライフステージ別に幸福度の指標を考えることが非常に重要なのではないかと考えました。

これまでも、幸福度指標という名前は使われていなくても、いろいろな形でそれに近い指標は、国レベルでも、自治体でも、民間でも公表されてきたわけですが、我々の考えている幸福度指標というのは、主観的幸福感に影響を与えるような客観的な指標群とはどういうものかということを考えるということです。主観、客観というのは非常に相対的なものですが、客観的と思われるものでも、よく見ると主観的なものが入っています。主観的な幸福感を決める指標大系というものはどういうものかという考え方、そのような基本的な考え方で作成するということでもあります。

ライフステージの勘案

こども・若者

成人

高齢者

友人

家計家族

健康

- 主観的幸福感を判断する際に重視する項目は、年齢性により差異。
- ライフステージの違いを勘案して指標を選択。

既存の統計でわかるものもありますし、わからないものもあります。今後の統計データの整備等も見通して、幸福度を決める上で非常に重要だけれど、現在は客観的なデータがないようなものについては、今後データ開発を行うことや統計整備を促すということを提案しています。

それから単一の指標であらわすことができるかどうかということについても、いろいろ議論があると思います。先ほどライフステージ別に見ると、主観的幸福感に影響を与える要素というのはかなり違うということがありました。それから、一国全体で平均して幸福度を見るということも、国際比較では大事であるかもしれないですが、一人一人幸福感のとらえ方というのは違いますし、極端に言えば家族の中でも、家族のメンバーのそれぞれがどういうふうに幸福感を考えるかというのは違うと思います。そこで我々の研究会では、単一の指標であらわすのではなくて、ブレイクダウンしてみようという立場をとっています。ですから、一つの統合的な指標で幸福度を把握しようとしているのではないということです。

先ほど3つの軸を想定していると言いましたが、具体的にどんな指標群を考えているかということ、まず、主観的幸福感、つまり3つの軸で決定されると思われる主観的な幸福感について、いろいろなレベルで考えることができるのではないかと思います。

我々は、「あなたは幸福ですか」と聞かれたときに、無意識のうちに何かと比較していることが多いと思いますが、それは自分自身の理想と比較しているのか、あるいは過去と比べて今の自分がどうかということを考えることもありますし、将来自分がこう

あるべきだろうというものと比較して今の自分を考えているということもあるかもしれません。日本人の場合にはよく、人並み感ということが言われますが、社会全体の中で自分が置かれているポジションを意識して幸福感を感じるかもしれない。あるいは、今までにどのような感情経験をしたかということも大事ですし、先ほど言いましたように世帯内の幸福度の格差という観点もあるかと思えます。

主観的幸福感の具体的なはかり方としては、「あなたは非常に幸せですか、非常に不幸ですか」という設問を行い、回答を5段階か10段階のスケールで選んでもらいます。例えば10段階であれば、真ん中だと思える人は5に丸をつけ、真ん中より少し幸福感が高いという人は6とか7に丸をつけます。そうすると日本人は、大体5に丸をつける人が多く、それから7、8に丸をつける人が多くて、二こぶラクダみたいになっていると言われます。そのあたりは、日本人の人並み感というのも当然影響しているでしょうし、今自分が最も幸せなときだと思いたくないという意識が働いているという分析をする人もいます。つまり今が最高だと思うと、あとは落ちていくだけなので、もっと幸福になる余地があると考えたい、信じたいと思っているのではないかという解釈もあり得ると思えます。

主観的幸福感

- ✓主観的幸福感
- ✓理想の幸福感
- ✓将来の幸福感
- ✓人並み感
- ✓感情経験
- ✓世帯内幸福度格差



次に3つの主軸のほうに移りますが、1つは経済社会状況、これは割と従来から考えられていたものが中心になるかと思えます。

基本的ニーズ、住居、子育て・教育、雇用、社会制度というような分野が考えられると思いますが、具体的な指標を提案しています。この縦のほうは先ほどのライフステージに対応して、横が経済社会状況に関する指標の領域です。例えば、最近ですと

子どもの貧困率が非常に注目されていますし、あるいはニート、仕事満足度とか社会活動への参加率が入っています。

経済社会状況

- ✓ 基本的ニーズ
- ✓ 住居
- ✓ 子育て・教育
- ✓ 雇用
- ✓ 社会制度



経済社会状況の指標

	基本的 ニーズ	住環境	子育て・教育	仕事	制度
個人・世帯・地域	貧困状況、他7指標	ホームレス数、他7指標	学歴、他2指標	望まない非正規雇用率、他3指標	制度への信頼(政府)、他4指標
子ども・若者	子どもの貧困率	子どもだけで過ごす時間がある子供の数	学校生活満足度、他4指標	ニート数、他3指標	
成人	自己破産		子育て満足度、他5指標	仕事満足度、他5指標	
高齢者数	自虐高齢者数、他3指標			社会活動参加率	
指標数	14	9	13	15	5

それから2番目が心身の健康ということです。これは、いわゆる肉体的な健康だけではなくて、精神的な意味での健康というのも非常に重要なのではないかと考えています。身体的健康、それから精神的な健康の具体的な指標群としては自殺、うつ、などが入っています。あるいは身体精神に共通するような項目というのも掲げています。

心身の健康

- ✓ 身体的健康
- ✓ 精神的健康



心身の健康の指標例

	身体的健康	精神的健康	身体・精神共通
個人・世帯・地域	長期疾患率	自殺死亡者数、他3指標	平均寿命、他3指標
子ども・若者	乳児死亡率、幼児死亡率、他1指標	子ども当たり児童虐待数、他2指標	
成人		うつ	DV認知件数、他1指標
高齢者数	日常生活動作(A DL)、他1指標	年齢別認知症発症率	健康自己評価
指標数	5	9	7

それから3番目が関係性です。これはライフスタイルとか家族とのつながり、地域等とのつながり、あるいは自然とのつながりということで、これは特に東日本大震災の後、つながり、家族とのきずなを非常に重要であると感じたという人が非常に増えています。しかし、平時においてもこういう関係性——社会関係、家族関係が非常に重要だと考えていまして、ライフスタイルから自然とのつながりまで、幾つかの指標を例示しています。

関係性

- ✓ライフスタイル
- ✓家族とのつながり
- ✓地域等とのつながり
- ✓自然とのつながり



関係性の指標

	ライフスタイル	個人・家族のつながり	地域・社会とのつながり	自然とのつながり
個人・世帯・地域	自由時間、他3指標	家族・親族、友人との接触密度、他4指標	自己有用感、他7指標	自然への畏敬、他4指標
子ども・若者	遊び、就学、塾・習い事の時間配分	孤独を感じる子どもの割合	ひきもり数、他3指標	
成人	有給休暇取得率	両親など近親者が近隣にいない世帯	NPO、NGO、スポーツ・趣味団体などの活動への参加頻度	
高齢者数	手段的日常生活動作(IADL)	独居で、かつ親族が近隣にいない世帯数		
指標数	14	9	13	15

最後に3つの主軸とは少し別の次元だと考えていますが、持続可能性ということです。これは、我々が将来にわたって、我々の次の世代、次の次の世代まで考えるときに意識しておかなくてはいけないことで、これもやはり主観的幸福感に影響する要素だと考えています。いわゆる地球温暖化の問題であるとか、大気汚染の問題であるとか、あるいはそれを促すような消費者行動であるとか、企業の情報開示の問題も要因として考えられると思います。具体的な指標、それぞれの要素に対応するような具体的な指標を提案しています。

以上が、我々が考えている幸福度指標の考え方、それから具体的な項目の提案ということですが、こういう指標の中には全国規模で把握ができていないものもあって、先ほども言いましたように、主観的幸福感を決める上で不可欠なもの、不可欠であるにもかかわらず現在データが整備されていないようなものについては、我々がこういう



分野の統計データの整備が重要だということを提案することも必要なのではないかと思います。この研究会の報告書は昨年12月に出了ましたが、それ以降、新しいアンケート調査等々も実施しようとしているところであります。

内閣府で我々が行っている幸福度に関する指標の検討、指標群の提案について、まずご報告させていただきました。どうぞご清聴ありがとうございました。

持続可能性

- ✓地球温暖化
- ✓物質循環
- ✓大気環境
- ✓水環境
- ✓化学物質
- ✓生物多様性
- ✓環境容量の占有量
- ✓消費者行動
- ✓企業などの情報開示



持続可能性の指標

- ① 地球温暖化:温室効果ガスの年間総排出量(家計部門は特記)
- ② 物質循環:循環利用率・最終処分量(生活系ごみは特記)
- ③ 大気環境:大気汚染に係る環境基準達成率・都市域における年間30℃超高温時間数・熱帯夜日数
- ④ 水環境:公共用水域の環境基準達成率・地下水の環境基準達成率・パーチャルウォーター総輸入量(率)
- ⑤ 化学物質:PRTR対象物質のうち環境基準・指針値が設定されている物質等の環境への排出量
- ⑥ 生物多様性:脊椎動物、昆虫、維管束植物の各分類群における評価対象種数に対する絶滅のおそれがある種数の割合・生物多様性指数
- ⑦ 環境容量の占有量:エコロジカル・フットプリント
- ⑧ 消費者行動:フェアトレード商品購入量・エコラベル商品購入量
- ⑨ 企業などの情報開示:CSR報告書を作成している企業数

把握されていない指標

- * 提案された指標群の中には、全国規模で把握されていないものもある。
- * 指標群が本来の目的である①国、社会、地域がどのような状況にあり、良い点、悪い点、は何かを明らかにすること、②その上で国、社会、地域が何処を目指そうとしているか、といった点を皆で議論し、考えを深めるためには、統計の充実が必要である。

4. 荒川区民総幸福度（GAH）～誰もが幸福を実感できる地域社会を目指して～

荒川区長

西川 太郎

今日は、荒川区が地道に8年かけて取り組んでまいりました、基礎自治体における幸福の研究と政策への取り組みについて、発表させていただきたいと思います。



荒川区民総幸福度（GAH）は「ガー」と発音しますが、これはブータンの公用語でありますゾンカ語で、全く偶然でございますが「幸福」という意味でございます。私は8年前に区長に就任したときに、経営学というドメイン（事業領域）を、「区政は区民を幸せにするシステムである。」と決めました。これは、「我々は区民を対象に幸せというアイテムをシステムチックにお届けできないか」という思いから、このように設定したものです。

1. 「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）の設定

- 区民の幸福度を高めることこそが、基礎自治体の目指すべき目標。
- 「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）を設定。
- ドメインを掲げることによって、区政の役割を明確化。
- 職員に区政の役割を明示。
- 職員が区民の幸福のために何をすべきかを常に意識して行動し、新たな課題にチャレンジする土壌をつくる。

2

最初のうちは、区の職員はドメインを標語と思っていましたが、今は区の職員も明確に理解しております。

荒川区がなぜGAHを考案したかと申しますと、まず、「GDPがいくらか」ということではなく、区民一人ひとりが真に幸福を実感できるかどうかではないかと考えました。そして、心の豊かさや人とのつながりを大切に、区民が安心して生活できるあたたかい地域社会を目指していくことが、基礎自治体の役割であると考えていたとき、ブータンのグロス・ナショナル・ハピネス（GNH）に出会いました。国民の幸せを最大化することを国の目標と位置付けていることに大きな感銘を受けました。その後、月尾嘉男東京大学名誉教授から、「当面、不幸だという人を減らすことが重要ではないか」というご指導をいただきました。その後、平成17年11月に荒川区民総幸福度（Gross Arakawa Happiness）、GAHを提唱し、区にプロジェクトチームを結成して、研究を開始しました。また、平成18年に、職員3人をブータンに派遣しました。平成21年10月には、GAHを含めた区政等の課題について調査研究する機関として、荒川区自治総合研究所を設置し、そこで本格的に研究を開始しました。この研究所では、幸福度以外にも区の様々な課題について研究しており、研究テーマごとに第一線で活躍する外部の専門家、例えば、東京大学名誉教授である神野直彦先生や、国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩先生など、いろいろな方々に御参画いただいています。

この研究所には、設立以来、全国から150を超えるご視察をいただいております、明日はフランスのレンヌ大学の研究者の皆様がお見えになります。

2. 荒川区民総幸福度(GAH)を考案したきっかけ

- ブータンのグロス・ナショナル・ハピネス(GNH)との出会い。自分の思いとの一致。
- 月尾嘉男東京大学名誉教授からの助言
「当面、不幸だという人を減らすことが重要ではないか」
- 平成17年11月に荒川区民総幸福度(Gross Arakawa Happiness:GAH)を提唱。
- 庁内にプロジェクトチームを設置して検討を開始。
- 平成21年10月に荒川区自治総合研究所を設置し、本格的なGAHの研究を開始。

全国の自治体にも、幸福度について取り組む仲間が広がってきています。今日、私がこの場で訴えたいのは、こうしたことに取り組むには基礎自治体が一番適しているということです。ナショナルミニマムという全国共通の基準を意味する言葉がありますが、ある方が、「国全体で幸福について取り組む場合に気をつけなければいけないのは、全体主義的な発想になってはいけないということ」とおっしゃっていました。それに対して、私たち基礎自治体であれば、そのようなことは全くありません。荒川区が幸福度という問題に取り組む価値は非常に大きいと思います。



3. 荒川区民総幸福度(GAH)とは何か

- 荒川区民総幸福度(GAH)とは、荒川区民の幸福度を測るものさし、指標のこと。
- これまでの行政評価はアウトプット(結果)による評価が中心(例:公園の整備数、講座の開催数等)。
→アウトカム(成果)による評価が必要。
- 行政の究極のアウトカム=区民の幸福
- 区民の幸福度を測る指標を作り、行政が区民の幸福度の向上にどの程度寄与したかを評価する。
- また、区民の幸福度の向上という観点から、資源を優先的に投資する分野を把握する。
- 幸福度の指標化により、真に住民本位の行政が実現可能。
→究極の行政改革

4

○ GAHの取り組み年表

- ・2004年 「区政は区民を幸せにするシステムである」設定
- ・2005年 荒川区民総幸福度（GAH）を提唱
区職員によるプロジェクトチームを結成
- ・2006年 荒川区政世論調査において区民に幸福度を尋ねる質問を開始
ブータン王国に職員3名を派遣
- ・2007年 荒川区が目指すべき将来像「幸福実感都市あらかわ」を掲げた
「荒川区基本構想」発表、「荒川区基本計画」策定
- ・2009年 荒川区自治総合研究所で研究開始
- ・2010年 GAHに関する本『あたたかい地域社会を築くための指標』を出版
- ・2011年 GAHに関する研究プロジェクト中間報告書公表

我々は、幸福度について、学術的な研究だけをしているわけではありません。区民の皆様幸せの向上につながる、実践的な研究を行っています。これまでの行政評価というのは、アウトプットによる評価、つまり結果による評価が中心でした。例えば、「公園を何か所整備したか」、「講座は何回開催したか」などの数値による評価は行われてきましたが、施策がどれだけ住民の役に立ったかという、アウトカム（成果）による評価はあまりされてきませんでした。しかし、「行政の究極のアウトカム＝区民の幸福」とし、区民の幸福度を測る指標を作成することができれば、行政施策がどれだけ住民の役に立ったか、というアウトカムで行政評価を行うことができます。また、行政各分野を共通の指標で評価できれば、幸福度により重要な分野に資源を優先的に配分することも可能になります。

これは言うのは簡単ですが、実行するのは難しいものです。指標は6つの分野に分けて作成中ですが、これまでの研究成果としては、平成23年8月に、中間報告書を公表しました。その中には、健康の分野と子育て・保育の分野の指標案が含まれています。また、平成22年5月には、GAHに関する書籍『あたたかい地域社会を築くための指標』も発行しました。

なお、研究所の研究テーマの1つであった「子どもの貧困・社会排除問題」に関する書籍『子どもの未来を守る』も発行しました。この本には、本日のコーディネーターである西村先生が所長をお務めの、国立社会保障・人口問題研究所研究所の阿部彩先生にも、対談という形でご参画いただきました。また、現在は、東京都と特別区の間で、より迅速にきめ細かな対応を図ることができるよう、住民に一番身近な区に児童相談所を移管することについて検討をしています。

今後は、研究成果をいかに政策に結びつけていくかということ、具体的に実行していきたいと思っています。専門の学者の先生方からは、「すぐに政策に結びつかなくとも、

まずは区民の笑顔を一人でも増やすように、職員の皆さんに指導していくことが大事ではないか」とご助言がありました。また、先ほど申し上げましたように、月尾先生からは「幸福というのはなかなか難しいだろう。しかし、不幸というのは類型化しやすいのではないか」とのご助言も頂いています。

4. 現段階での研究成果

■本の出版

- 平成22年5月に、GAHに関する本、『あたたかい地域社会を築くための指標』を刊行。



■中間報告書の公表

- 平成23年8月に、中間報告書を公表。
- 「健康」および「子育て・保育」に関する指標案を公表。
- <http://www.rilac.or.jp/>でご覧いただけます。



5

<参考資料>

【健康指標案】

カテゴリー				指標	数値		
1	2	3	4				
一生涯健康都市	健康			健康実感度	72.9% (H22)		
				平均寿命	荒川区…男 80.79 歳、女 84.15 歳 全 国…男 81.79 歳、女 84.81 歳 (H20)		
		体の健康			体の動作の自由度	—	
					健康寿命	男…79.83 歳、女 81.81 歳 (H20)	
					早世率	男性 123.4 女性 100.9 (H20)	
					要介護出現率	17.7% (H20)	
					転倒率	20% (H22)	
					BMI25 以上の率	男性 23% 女性 16% (H20)	
					運動	運動の頻度	—
		食事	食生活の満足度	73.8% (H22)			
		体の休息	体の休息度	—			
		心の健康			自殺死亡率	2.78% (H20)	
					うつ傾向率	26.9% (H22) ※65 歳以上	
					心の安定度	—	
					つながり	つながりの実感度	—
					役割	自分の役割や存在意義の実感度	—
		健康のため の環境			心の休息	心の安らぎの実感度	—
					健康を維持できる環境の実感度	—	
					生活保護率	24.2‰ (H21)	
					保険被保険者一人当たり医療費	285,578 円 (H21)	
					1 万人当たり医療施設数	10.2 (H19)	
					安心できる地域のサポート	困った時のサポートがある実感度	—
					豊かな生活の質	日常生活の満足度	—
快適なまち	地域環境の満足度	83.8% (H22)					

(出典：荒川区民総幸福度 (GAH) に関する研究プロジェクト中間報告書)

【子育て・保育指標案】

カテゴリー				指標	
1	2	3 (領域)	4 (分野)		
子育て・保育 （対象は未就学児） 子育て教育都市	①子育ての理想	子育ての理想	子育ての理想達成度	—	
			子育て支援事業の貢献度	—	
	②子育て支援	子育て支援事業	在宅支援事業の満足度	—	
			保育サービスの子どもへの成長への貢献度	—	
			待機児童数	49人 (H21)	
			保育可能数	—	
			荒川区合計特殊出生率	1.16 (H20)	
			経済支援の子育てへの貢献度	—	
	③経済支援	行政からの経済支援	公共公益施設の子育てのしやすさ	—	
			オムツ替え・授乳できる場所の数	45箇所 (H21)	
	④環境	まち・施設	遊び場の充実度	—	
		遊べる場所	体験できる場所の充実度	—	
		体験できる機会	家族の理解度	—	
	⑤コミュニティ	家族のコミュニティ	虐待の相談件数	新規38件、活動件数401件 (H21)	
			子育ての相談件数	子ども家庭支援センター受件数26、活動件数159件。保健所・育児相談91件	
			相談できる場所・人	頼れる人がいる割合	
			地域のコミュニティ	地域の子育てへの理解度	
			交流できる場所の充実度	—	
	⑥安全・安心	安全・安心対策の事業	安全・安心事業の子育てへの貢献度	—	
		安全・安心の実感	子どもの安全・安心度	—	
子どもを対象とした犯罪・事故の件数			0件 (H21)		
⑦広報	区からの子育て情報の入手	子育て情報の入手のしやすさ	—		
		子育て応援サイトアクセス件数	55,000件 (H21)		
	区からの子育て情報の活用	子育て情報の内容充実度	—		

(出典：荒川区民総幸福度 (GAH) に関する研究プロジェクト中間報告書)

そこで、「不幸を減らす」などの観点から、さまざまな施策を実施しています。例えば、私は、早稲田大学や明治大学などいろいろなところで、学生に「23区の職員になりませんか」というお願いをし、荒川区にインターンシップに来ていただいています。

その学生たちから「荒川区において、死因のなかで、自殺の占める割合が、あなたが区長になったときよりも上昇していますね」という鋭い指摘を受けました。これはもう、すぐに自殺予防に取り組みました。このように、不幸をいかに減らしていくかということについて、今、一生懸命に取り組んでおります。

本日は、資料をお配りさせていただいているので、後程ご覧いただければと思います。これで私の発表を終わらせていただきます。

5. 荒川区民総幸福度(GAH)向上に向けた取り組み

- 行政の取り組みは、全て区民の幸福につながっている。
例: 犯罪防止、防災、自殺予防、子どもの貧困対策など
→ 「不幸を減らす」



- 指標の完成を待たずに具体的な取組みを展開
- 以下、主な取組みの例を紹介

5. 荒川区民総幸福度(GAH)向上に向けた取り組み

■子どもの安全・見守り

- 子どもの不幸を減らすという観点から施策を検討。



- 子どもの登下校時や降園時の安全を確保するため「安全推進員」を配置。
- 児童の安全活動の拠点として、学校にスクール安全ステーションを設置。

園児安全推進員の見守り



スクール安全ステーション

5. 荒川区民総幸福度(GAH)向上に向けた取り組み

■あらかわ満点メニュー

- 世論調査結果では、「幸福な生活に必要なこと」の第1位が「健康」。
- 荒川区は若くして亡くなる人が多いとの統計あり。



- 働き盛り世代の外食の多さに注目。
- 区内の飲食店が、女子栄養大学と協力して栄養バランスのとれた「あらかわ満点メニュー」を開発。
- 地域全体で健康づくりをしようという取り組み。

あらかわ満点メニューの情報誌「まんてん」



あらかわ満点メニューののぼり

5. 荒川区民総幸福度(GAH)向上に向けた取り組み

■地域の消火活動

- 世論調査によれば、区民は地震等の防災対策に力を入れてほしい。
 - 荒川区には木造住宅が密集した地域がある。
- ↓
- 初期消火に有効な防災用バケツを2万個配備。
 - 地域で防災が行えるような取り組みを進めている。



バケツリレーによる消火活動

9

5. 荒川区民総幸福度(GAH)向上に向けた取り組み

■就労支援

- 就労の有無は幸福度に大きく影響。
- ↓
- 若者や障がい者などの就労を支援すべく、平成24年4月から、「就労支援課」を設置。
 - ハローワーク足立や東京商工会議所荒川支部などと協力し、「マイタウン就職面接会」という就職面接会の実施回数を増加。



マイタウン就職面接会の様子

10

5. 荒川区民総幸福度(GAH)向上に向けた取り組み

■「人財」の育成

- 「区民を幸せにするシステム」を担う職員＝「人財」の育成の必要性。



- 平成17年に、高い志を涵養し、豊かな教養と高度な専門知識の習得を目指した新たな研修機関として「荒川区職員ビジネスカレッジ」を開設。
- 各界の第一線で活躍している民間団体のトップや大学教授等の専門家などを招聘し、幅広い分野にまたがる講義を実施。
- ゼミでは管理職職員が教授・准教授として指導。



荒川区職員ビジネスカレッジの様子

11

最後となりますが、地方自治体、特に基礎自治体、我々は基幹自治体と名乗っていますが、我々のところが、幸福度に取り組むには一番ふさわしいと思っております。

6. 誰もが幸福を実感できる地域社会を目指して

- GAHのもう1つの目的は、区民と共に幸福について考え、持てるものを分かち合うことが自らの幸福にもつながることを共通認識とし、互いが支え合うあたたかい地域社会を築いていくこと
- 神野直彦東京大学名誉教授からの助言
「『競争社会』から『協力社会』へ」
- 東日本大震災を契機に、地域のつながりや絆の大切さが改めて注目されている。
- 区民の幸福を目指したよりよいサービスを目指すとともに、自分や身近な人、地域のために自らが持っているものを活用していく分かち合いの社会、お互いが支え合うようなあたたかい地域社会を目指す。

12

5. 福井の幸福と希望について

福井県副知事

満田 誉

「福井の幸福と希望について」というテーマで発表させていただきたいと思います。

福井県の人口は大体80万人です。
100万以下の県というのは全国で確か
9つあったと思いますが、そのうちの
1つで小さい規模でございます。

健康長寿先進県で、お年寄りでも非
常に元気で、介護にならずに元気であ
ります。

子どもの学力・体力がトップクラス
です。学力だけでなしに体力のほうも
ということです。

優れた雇用環境にあります。これは農林水産業等も含めてですが、工業類や農林水産業のバランスがとれています。働く場所が非常に多種多様にあるということです。

家族・地域のつながりがあります。3世代同居の割合が非常に高く、現時点で全国2位です。あるいは3世代で近くに住んでいるということで、地域や家族のつながりが大変濃いということです。3世代で同居しますので、共稼ぎ率が非常に高く、全国1位です。

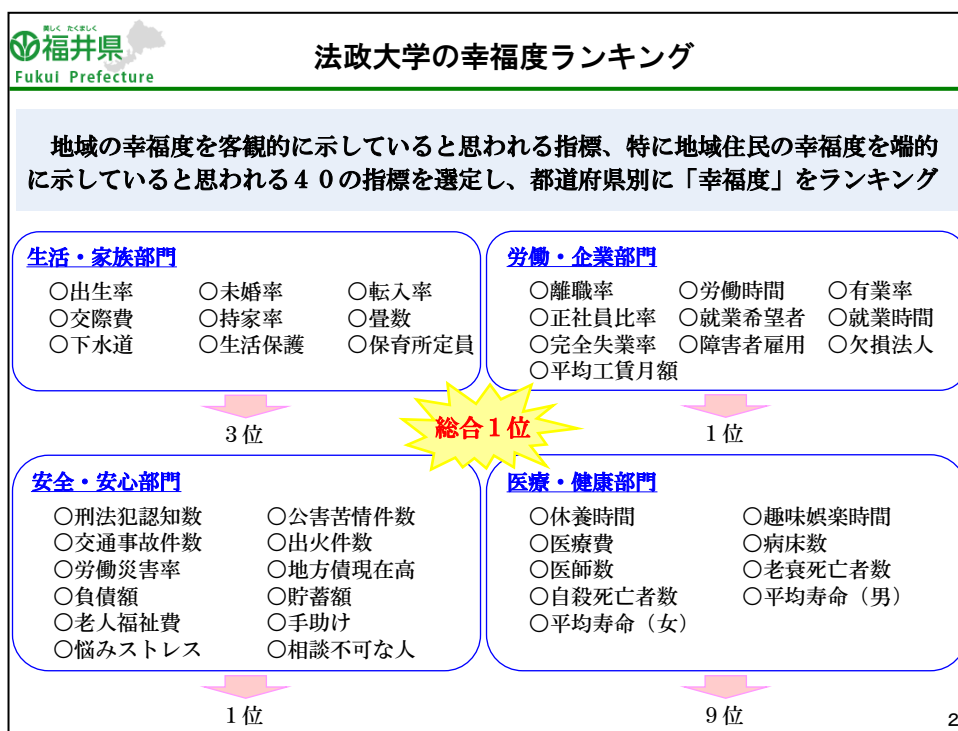


世帯の収入は全国2位です。おじいちゃん、おばあちゃんが子どもを見ているので夫婦は働くことができます。おじいちゃん、おばあちゃんも子ども、孫の面倒を見るかたわらで農業はきちんとします。早い話がよく働く一家であるということでございます。

ただ、あとで申し上げます幸福度のランキングが高いということですが、何か幸福度を高めるがためにもものすごく特別なことを取り立ててやっているかという、これは私の主観的な見方、個人的な見方ですが、取り立ててそういうことをしているということではありません。言ってみたら、恐らく日本の各地にあった昔ながらの生活のよい部分、あるいは働いたり、休んだり、勉強したりというような、そういうバランスのとれた生活をずっと長く続けてきたのだらうと思います。つまり、基本に忠実であり、地方の生活というものを忠実に守ってきたという、そういう気がいたします。

その1つのあらわれが、法政大学の坂本先生がいくつかの指標を使って総合平均点を算出してみたところ、都道府県別の「幸福度ランキング」が全国で1位になったというものでございます。

実は、旧経企庁が1990年代に発表していただきました新国民生活指標、これは豊かさの指標と言われていたようですが、これでも平成6年から5年連続で全国1位でありました。幸福度に近い話ですが、指標をとってみると、豊かな生活をしているのではないだろうか、あるいは、暮らしやすい地域とよく言われます。暮らしやすい地域ということで、取り上げられることがよくございます。




この坂本先生の幸福度のランキングをみると、大きく分けて4つの分野で測っており、合計で40の指標を選定して総合の平均点を出していただいています。

1つが、労働と企業の部門です。つまり働く部門なわけですが、特に目立つところを言いますと、失業率は低いほうから2番目です。正社員の比率は高いほうから3番目です。それから障害を持った方々も雇用しておりまして、障害者雇用率は全国2位です。ということで、働く面でいい結果が出ているというのが、1つ大きな要因としてございます。

もともと福井県は昭和20年代から30年代にかけて繊維産業が大変盛んでした。今も県内に一部、二部の上場企業がありますが、こうしたところは繊維から生まれてきたところが多くあります。化学製品であったり、あるいは今でも繊維で頑張っているところもありますし、あるいは繊維から出てきた界面活性剤のトップシェアという企業もあります。多くのところがそうした技術開発を経て、企業が成り立っているということがございます。

それから農業でいきますと、県内は細長い形ですけれども、水に困る地域が少ない。つまり雪国ですから、積雪があって、どこの川をとっても水量が豊富です。少し台地になっているところもありますが、残りのところは川から水をとって農業ができます。そういう恵まれた環境にあるということもあり、農業でもよく働くことができます。



福井県
Fukui Prefecture

福井県の暮らしやすさ


幸福度ランキングからわかる福井県の暮らしやすさ

○優れた雇用環境・経済的に安定した家庭

- ・有効求人倍率が20か月連続日本一、失業率が低く、正社員比率が高い
- ・新卒者や新卒未就職者の就業支援、障害がある方への支援の成果
- ・家族の助け合いによる夫婦共働き（世帯収入が高い（全国2位））

○優れた子育て環境

- ・6年連続で合計特殊出生率が増加
- ・結婚から出産、子育てといった一人ひとりのライフステージを対象とした切れ目ない子育て応援の成果



優れた雇用・子育て環境の実現

3

宣伝になりますが、コシヒカリというのは、東京では新潟あるいは富山のお米と思われていると思いますが、もともとは福井県の試験研究機関で開発されたものです。ただ作付面積が圧倒的に違うので、いまや新潟県ですが、もとはといえば福井県というのが県民のひそかな自慢です。



そうした形で農業、農業所得も含めて、伝統産業、それ以外でも眼鏡のフレームの9割は本県産です。これは明治期に先見の明のある人がおられて、日本人はこれから義務教育制度が行き届いて、よく勉強するようになる。すると、子どもたちも本を読むようになっていくから、日本人はきっと目が悪くなるに違いない。しかも、眼鏡のフレームは針金を曲げて固めたらいいんだから、冬の家内工業によからうということで、日本人はこれから眼鏡が多くなると見た人が導入しました。これは本当の話ですが、そういうことを思った人が明治期に導入して、鯖江という市で発展していきました。こういう産業ですが、今はだいぶ中国に押されているのですが、現在でも眼鏡フレームであり、またそこから発展していった部品づくりから発展していったチタンの加工技術で、医療用のいろいろな器具に発展していったところがございます。医療用の精密機械の部品になっていったようなこともあります。そういうようなことで、100年以上のそうした近代工業の産地となっています。いろいろと東南アジア等の影響もありますが、雇用環境はなんとか維持しているという状態でございます。

生活・家族部門でいうと、出生率が高いです。それから保育所の整備率。待機児童というのがありません。ここの辺は行政の施策ですが、待機児童というのはなくて、なおかつ児童クラブも全校区に配置してくださっています。これはまさに基礎的自治体であります市町村のほうが大変に頑張ってくださいっております。放課後こどもクラブを全小学校区で設置するというので子育て支援も行政のほうも頑張っている。それから、働く場所があって所得があるということの裏返しとして、生活保護の率は極めて低くなっています。それから持ち家率も高い。そういうことで、生活環境、所得、そして雇用、生活という環境が整っているということは大きくあるかなと思います。


次にそうやって働くので、医療関係でいきますと、医療や健康というものも非常によい環境にある。

そして安全・安心。これは犯罪の件数も少ないですし、それから共働きで、しかも3世代で暮らすということで、貯蓄額が多いです。

それから主観的な要因として、悩みやストレスが少ない。これは何かデータがあるそうです。たしかに県庁の仕事も、これはいいことだという意味で申し上げるわけですが、悩みやストレスなしに県庁も頑張っておりますので、仕事ぶりとしても何かわかる気

はいたします。

結果として、平均寿命も高いですし、それから介護のお世話にならずに済む高齢者の比率が非常に高い。要するに、よく働いて体を動かして過ごしていけば、よい循環が生まれてくるというのが率直な実感でございます。



福井県
Fukui Prefecture

福井県の暮らしやすさ


幸福度ランキングからわかる福井県の暮らしやすさ

○地域防犯力による安全・安心

- 刑法犯認知件数が9年連続減少
- 地域の人と人とのつながりが強く、地域総ぐるみの見守り活動などの成果

○健康で長寿な高齢者が多い

- 要介護認定を受けていない高齢者（65歳～74歳）96.6%（全国2位）
- 豊かな福井の食生活に加え、がん予防・治療の両面からの政策、介護予防や高齢者が元気に暮らすための政策の成果



安心して健康に暮らすことができる環境の実現

4

1つだけ加えますと、子どもさんの学力、体力が高いということの中の1つとして、体力のために休み時間、学校の2時間目と3時間目の間の休み時間を少し多めにとっており、その間、全校において校庭で縄跳びとかをしています。そういった努力もあるようでございます。


それから、家庭の環境でひとつ東京や大阪と違うと思うのは、民放のテレビの数が2波しかないことです。これは本州では極めて少ない。確か県別で、しかも県庁所在都市で2波しかないというのはかなり少なかったと思います。九州に行くと、例えば佐賀は1波ですが、実は、全部福岡の電波が入ってくるので、佐賀の場合は全部で5波見られるわけです。福井の場合は他の系列が入らずに、テレビは2波です。その分だけ、それこそ見たい怪獣の番組やアニメは見られていないかもしれないのですが、でも別な形でよい時間を過ごしているのではないだろうかという気がします。決して良し悪しではなくて、そういう生活環境であるというのは、東京側にいると余り想像しにくいかなと思います。

結果として、子育て支援をしていることもあるのですが、6年連続で合計特殊出生率が増加している県でございます。結婚から出産、そして子育てといったところまで切れ目なく支援をしようとしているところがございます。

その昔、貯蓄率が高いと言った時によく言われたのは、お嫁さんに出すときに、物すごく嫁入り道具が豪華である。それをガラス張りのトラックに乗せて持たせるというようなことが、20年前にはありませんでした。このごろ余り見ないですが、娘さんが3人いらっしやると大変だというのはよく聞いた話です。それは別に女性側だけが大変なわけではなくて、男性の側はそれが入る家を用意しろという意味です。それは子どもの代にきちんと親から生活の基盤をつなぎ、その子どもたちはまた同じことをしていくわけなので、次から次に、次の代に生活の基盤をつなぐという意味で、まさに私は幸福度を高める仕掛けだったのだろうと思っています。そういうことで、ともかく子育て環境というものも整備されています。それは個々人の努力も、行政もしているということだと思っています。



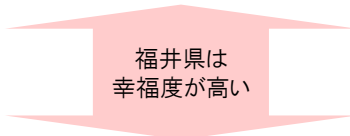
それから、安心して暮らせる地域の防犯です。これは特にコミュニティが残っているという現われだろうというように思っております。そして、おじいちゃん、おばあちゃんたちもよく働いて元気であるということだと思えます。大変名誉なことに、法政大学、あるいは東北大学のこうした指数でも高い評価を頂いております。



福井県の「幸福度」

《生活の質の客観的データ》

- 法政大学の「幸福度ランキング」（平成23年11月） ⇒ **福井県は総合1位**
「生活・家族」「労働・企業」「安全・安心」「医療・健康」の4部門40指標
- 東北大学の「高齢者福祉指数」（平成23年9月） ⇒ **福井県は総合2位**
「心身の健康」「経済状況」「社会参加」「個人生活」「安全・安心」の5分野15指標



福井県は
幸福度が高い

《個人の実感（主観的な幸福度）》

- 県民へのアンケート（平成21年6月） ⇒ **約8割の県民が現在の暮らしに満足**
- 東京大学の福井県民へのアンケート（平成23年3月）
 - ⇒ **約7割が暮らし向きは普通以上と回答**（全国平均：約4割）
 - ⇒ **16.7%の人が暮らし向きにゆとりがあると回答**（全国平均：4.8%）

5

では、満足しているかということで行きますと、多くの方が現在の暮らしには満足している、あるいは暮らし向きは普通以上であるというような回答を得られております。

一歩進んで、まだ進行中の話を最後に1点だけ加えます。

「ふるさと希望指数」と言いますが、これは東京大学の社会科学研究所の先生方が、ずっと県内の調査を続けてくださっている最中でございます。その希望学の知見の活用やアンケート調査を行い、将来に「希望」を持ち「行動」を起こせば「幸福」が得られるといったサイクルがあるのではないかとこの見地から、どういうことに希望を持っているかということを目指しています。決して指数ではないですが、こういうことに希望を持って、人々が暮らしているということを目指しとらえようということ、今進めているところです。

これは本県だけでなく、12の県で相談しながらこうした指標を考えており、近々1回目の「こういう要素ですよ」というものを公表しようと思っています。希望につながる要素というものを抜き出しいくというものです。そうすると、行政のほうも希望を支えるような施策ができるということで、希望につながる要素というのを今洗い出しています。こういうことが人々の希望につながって、そのために努力するのではないだろうか、そういう作業をしております。またこれにつきましては、ぜひ皆様のご指導を、そしてご意見を賜れば幸いです。



福井県
Fukui Prefecture

ふるさと希望指数（LHI）の概要

研究の趣旨・目的

- より良い未来を実現するためには、人々が、**将来に「希望」を持ち、具体的な「行動」を起こす**ことが必要
- 人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを明らかにし、概念的な「希望」を見える化
- 「希望」を政策課題とし、人々の「希望」を高める要素に働き掛けを行う政策づくりにつなげる

ふるさと希望指数（LHI）とは

- 現在の暮らしに対する満足感などから得られる「幸福」だけでなく、より良い未来を実現するため、**人々の「希望」につながり、「行動」によって達成することができる要素を抽出したもの**

※ 統計数値などにより数値化したものではない

ふるさと希望指数（LHI）の構成（4,000人に及ぶアンケートから「希望」につながる要素を抽出）

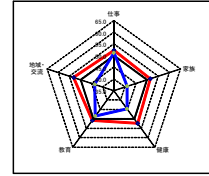
<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">仕事</p> <p style="font-size: x-small;">やりがいを感じる仕事に就き、一定の所得を収入とすることが、人々の希望につながる</p> <p style="font-size: x-small;">【希望につながる主要な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 満足している ○ 仕事の内容・従業員に恵んでいる ○ 所得が適当な収入が得られる ○ 仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている </div>	<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">家族</p> <p style="font-size: x-small;">お互いに信頼し、お互いの上向きな関係が築けることが、人々の希望につながる</p> <p style="font-size: x-small;">【希望につながる主要な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一緒にいて楽しい家族を持つ ○ 子どもの成長 ○ 家族でコミュニケーションがとれている ○ 夫婦のワークライフバランスがとれている </div>	<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">地域・交流</p> <p style="font-size: x-small;">地域に魅力を感じる生活、社会参加や地域活動が盛んで、暮らしやすさが人々の希望につながる</p> <p style="font-size: x-small;">【希望につながる主要な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会参加の機会に恵まれている ○ 子どもが地域行事に参加している ○ 学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している ○ 犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である </div>
<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">福祉</p> <p style="font-size: x-small;">子どもが安心して暮らす、高齢や障害のある人が安心して暮らすことが、人々の希望につながる</p> <p style="font-size: x-small;">【希望につながる主要な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護やケアなどが充実している ○ 医療の質が向上している ○ 子どもの福祉や子育て支援が充実している </div>	<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">教育</p> <p style="font-size: x-small;">学力や知識、社会性や人間力を伸ばすことが、人々の希望につながる</p> <p style="font-size: x-small;">【希望につながる主要な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学力が高い ○ 子どもの意欲や社会性が高い ○ 子どもが夢や目標を持って学習に取り組んでいる ○ 大学等の高等教育機関が充実している </div>	

6

「現状の水準」と「向上（変化）」の複眼的視点からデータ化

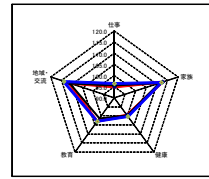
分野	希望につながる要素	参考統計
仕事	就業している	就業率
	正規の職員・従業員として働いている	正規就業率
	世帯当たりの収入が高い	実収入（勤労者1世帯当たり1か月）
	仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている	職業訓練・自己啓発実施率
家族	結婚して新しい家族を持つ	結婚率
	子どもを持つ	合計特殊出生率
	家族でコミュニケーションがとれている	子どもの家族交流率
健康	夫婦のワークライフバランスがとれている	家庭内ワークライフバランス率
	病気やけがなどがなく健康である	健康実感率
	健康に長生きする	自立調整健康寿命〔0歳以上〕
	健康の維持に努めている	健康診断受診率
教育	子どもの基礎体力が高く元気である	子どもの体力
	子どもの学力が高い	子どもの学力
	子どもの道徳心や社会性が高い	子どもの道徳心・社会性
	子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している	子どもの夢・目標・挑戦力
地域・交流	大学等の高等教育機関で学ぶ	大学等進学率
	社会貢献活動に参加している	ボランティア活動の年間行動者率（15歳以上）
	子どもが地域行事に参加している	子どもの地域行事への参加率
	学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している	交際時間（15歳以上）
	犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である	刑犯認知件数＋交通事故発生件数

統計数値（偏差値）



	仕事	家族	健康	教育	地域・交流
地方	52.3	51.5	52.4	50.5	53.1
都市	51.2	41.1	44.7	48.5	43.6
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

変化率（基準年を100として表示）※基準年は昭和30年



	仕事	家族	健康	教育	地域・交流
地方	94.9	112.6	99.5	103.1	111.3
都市	96.4	112.2	100.3	103.0	113.8
全国平均	95.6	111.2	99.8	101.3	111.0

6. 兵庫県における指標作成の取り組み

兵庫県企画県民部ビジョン課 主幹
芦谷 恒憲

兵庫県ビジョン局や兵庫県立大学などの関係者が関わった「地域の豊かさ指標研究会」の指標作成の取り組みについてご報告します。

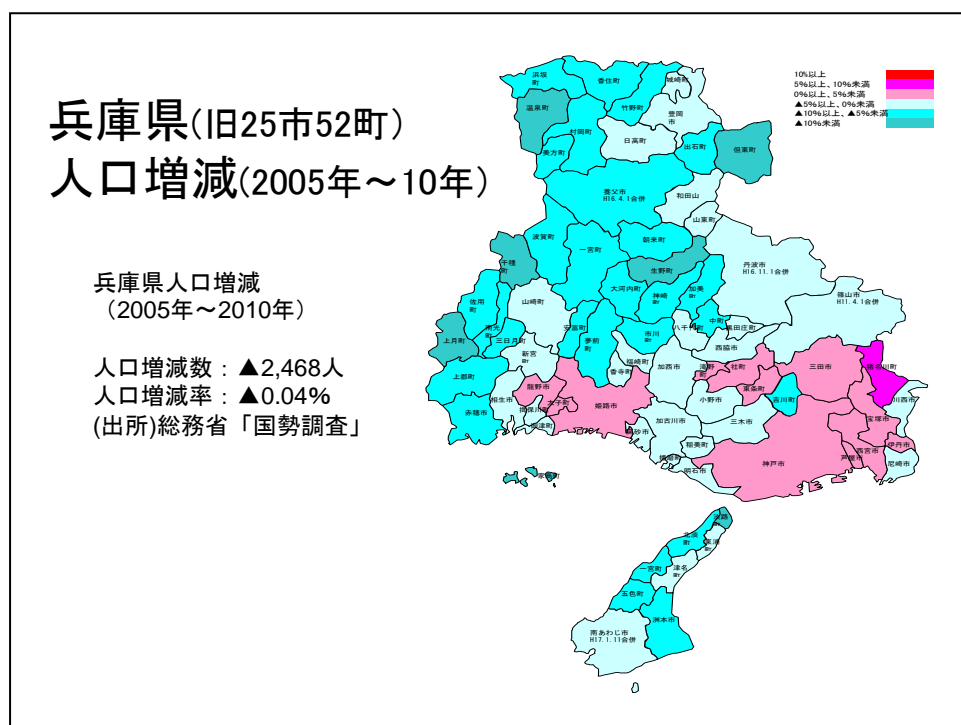
さて、本日の報告の内容ですが、1つ目は兵庫県ではこれまで「美しい兵庫指標」という指標を作成しています。2つ目は新たな指標の作成について兵庫県と兵庫県立大学などで構成する研究会で試算した指標について、その特徴と問題点や課題についてご紹介します。3つ目は、昨年12月に「21世紀兵庫長期ビジョン」の改定をしました。その中でビジョンを作ったのではなくて、ビジョンをフォローアップしていく指標である地域力指標作成の取り組みをご紹介します。なお、兵庫県の取り組みについては幸福度を含めた地域の豊かさをあらわす指標であり、この点をご留意ください。



報告の概要

- 1 これまでの取り組み
- 2 新たな指標の試算と課題
 - (1) 地域GPIの試算(研究会)
 - (2) 地域指数の試算(研究会)
- 3 地域力指標作成の取り組み

まず、兵庫県の現況についてご紹介します。兵庫県には現在、41市町ありますが、(平成の合併前) 5年前(1995年)の77市町により説明します。兵庫県の人口は、(2005年～2010年の) 5年間では横ばい推移しています。(一般的に) 兵庫県の指標は全国(平均値)に近いと言われています。ただし、兵庫県全体では横ばいですが、神戸市や姫路市など都市的な地域では人口は増加しています。一方、県北部の但馬地域、県南部の淡路地域などは人口が減少しています。兵庫県内を地域別に見た場合、地域別にはそれぞれ特色あり、地域課題もそれぞれ異なっているということをも、まずご紹介します。



兵庫県のこれまでの取り組みですが、兵庫県の長期ビジョンは、行政主導の計画づくりではなく、県民の参画と協働を基本的理念に県民からビジョン委員を任命し、長期ビジョンについて一緒に議論をした策定しました。2002年度から「美しい兵庫指標」という指標を作成しており、この中で実現の方向をシナリオによって説明しています。これは兵庫県ホームページに掲載されておりますので、是非ご覧ください。

次に、「美しい兵庫指標」について簡単にご紹介します。この指標は客観的なデータとともに、2002年度から「美しい兵庫指標県民意識調査」というアンケート調査を、兵庫県内居住の約5,000人を対象に実施しております。これは主観的指標ですが、シナリオを描きながら、この指標により長期ビジョンについて議論の材料としました。これがこれまでの取り組みの主な内容です。

「美しい兵庫指標」の構成

- 1 社会像評価: 4つの社会像ごとにストーリーを描き
達成状況の評価を行っている
社会像: 創造的市民社会、しごと活性社会、環境優
先社会、多彩な交流社会
- 2 指標データベース: 客観指標(477項目)
主観指標(69項目) 計546項目
※主なデータ
「美しい兵庫指標」県民意識調査(2002年度から
毎年実施)
(対象: 兵庫県内居住男女5,000人)

長期ビジョンづくりの議論の過程で、「指標がたくさんありすぎてわかりにくい」とか、「長期ビジョンをフォローアップできるものはないか」というコメントがあり、兵庫県立大学など先生と一緒に地域の豊かさをあらわす新しい指標を試算しました。その一つの事例がGPI(真の進歩指標)という指標の試算であり、これをさらに改良することにより地域力指標の作成に結びつけたいと思います。

2 新たな指標の試算と課題

(1) GPI(真の進歩指標)の試算(研究会※)

※地域の豊かさ指標研究会(兵庫県・兵庫県立大学)

課題: 客観的な推計方法が確立されていない

(2) GPI改良版地域指数の試算(研究会)

課題: 個別指標の項目別ウェイト情報が不足

(3) 地域力指標の作成

2012年度に検討予定

地域豊かさ指標試算の目的

- ・環境、安全安心、つながりなど地域の豊かさを客観的に評価する指標を収集する
- ・地域の豊かさを表現する指数を作成、利用法などについて考察する
- ・地域課題の把握や共有し、効果的な地域づくり活動の展開に役立てる

2012/4/6

7

2-1 兵庫県版GPI概要(研究会試算)

GPI: 経済の総合指標であるGDPを基本に経済・社会・環境の3つの側面を考慮し推計した「福祉指標」

今回の試算したGPIの推計期間

- 1) 兵庫県GPI: 1970年度～2010年度
- 2) 兵庫県内10地域(10県民局)別GPI:
1990年度～2010年度

地域の豊かさをあらわす指標として最初に出てきた指標がGDP（県内総生産）でした。しかし、それだけでは、地域の豊かさを表すことはできないため、GDPのデータの拡張版である指標が、これまでNPO団体や兵庫県立大学で研究されていました。これは、GDPなど経済指標のほかに、環境指標や社会指標を加えてあらわした指標です。この指標について最初にご紹介します。

GPI（真の進歩指標）は、幸福度よりも広い概念であります。幸福度をあらわす指標の検討に当たり、環境、安全・安心、（人と人との）つながりとかをあらわす指標について「美しい兵庫指標」の個別指標などを参考にして検討しました。

何故このようなことをやるかという、この指標群の中から地域課題の発見や地域の特徴の発見などに役立てていこうと考えたからです。地域の変化を見るためには、もう少し長い期間で指標を見たほうがいだろうということで、点在していたデータを整理し（長期時系列データの接続など）加工も加えながら、約40年間の個別データを集めました。

兵庫県全体のデータだけみると、全国の平均値に近いデータになります。兵庫県値を見ると、神戸に住む人は兵庫県値とは「違うのではないか」、あるいは但馬地域とか淡路地域とかに住む人は兵庫県値を比べたら「違うのではないか」となります。そのため、兵庫県内の地域をもう少し細かく見た（兵庫県の地域行政単位である）県民局単位である10地域別にデータを収集し、加工して個別データを整理しました。兵庫県立大学の先生が先行研究で作成した全国レベルのデータをまず収集、整理し、これを兵庫県及び兵庫県内10地域に当てはめました。

GPI個別指標の概要

- 1 経済指標: 金額データ**
所得金額、個人消費など
- 2 社会指標: 時間等を金額換算**
家事子育て価値、ボランティア価値
犯罪費用、家庭崩壊費用など
- 3 環境指標: 蓄積量・排出量を金額換算**
水質、大気汚染費用、農地喪失費用など

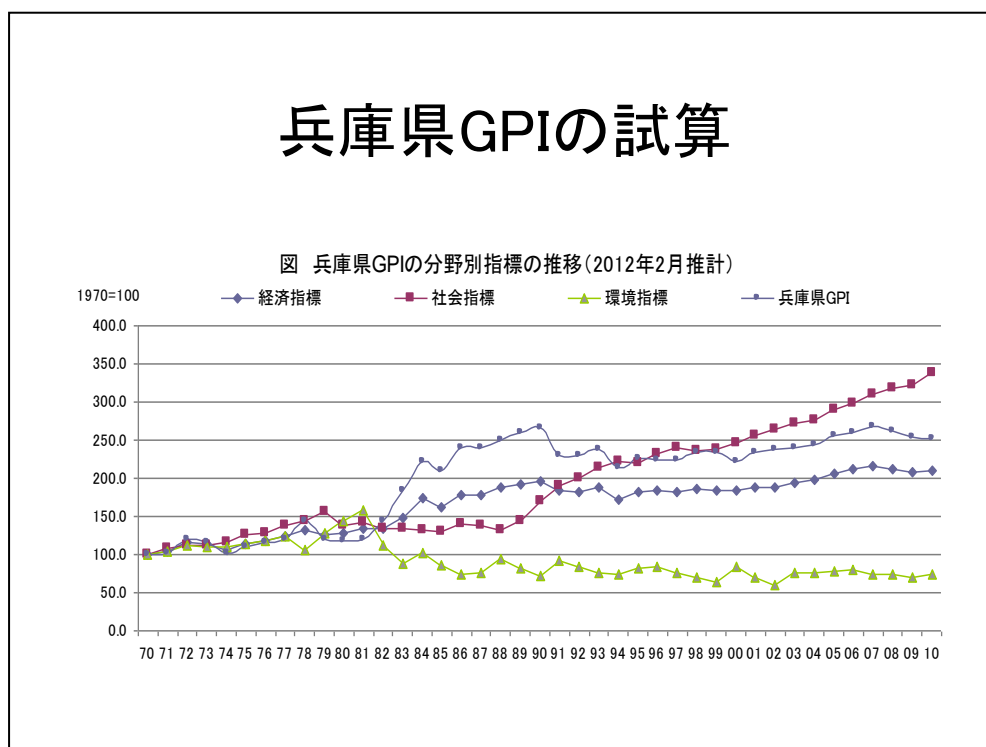
山内先生から（幸福度をあらかず）いろいろな指標が紹介されましたが、今回の試算では、経済分野のデータは概ねSNA（国民経済計算体系）のデータを使用しました。

SNAのデータには企業データも含まれますが、地域の豊かさや幸福度をあらかずデータは個人に帰属するデータに着目すべきであると考えました。

それからGDPにあられていない社会指標や環境指標について検討しました。例えば、社会指標の分野では、子育ての分野の価値やボランティア活動の価値をどのようにはかるのかについて検討しました。これも山内先生からの報告にも共通することがあるかと思いますが、これらの価値を、時間に換算し、各指標の共通単位である金額に換算しました。次に環境分野のデータです。これも豊かさに関係しているため、物量データであらわされている環境データを一定の基準で金額に換算しました。従来、報告書の統計表で公表されていないデータについては、データ加工を行いました。データの動きを見てもらうため、グラフ化しました。

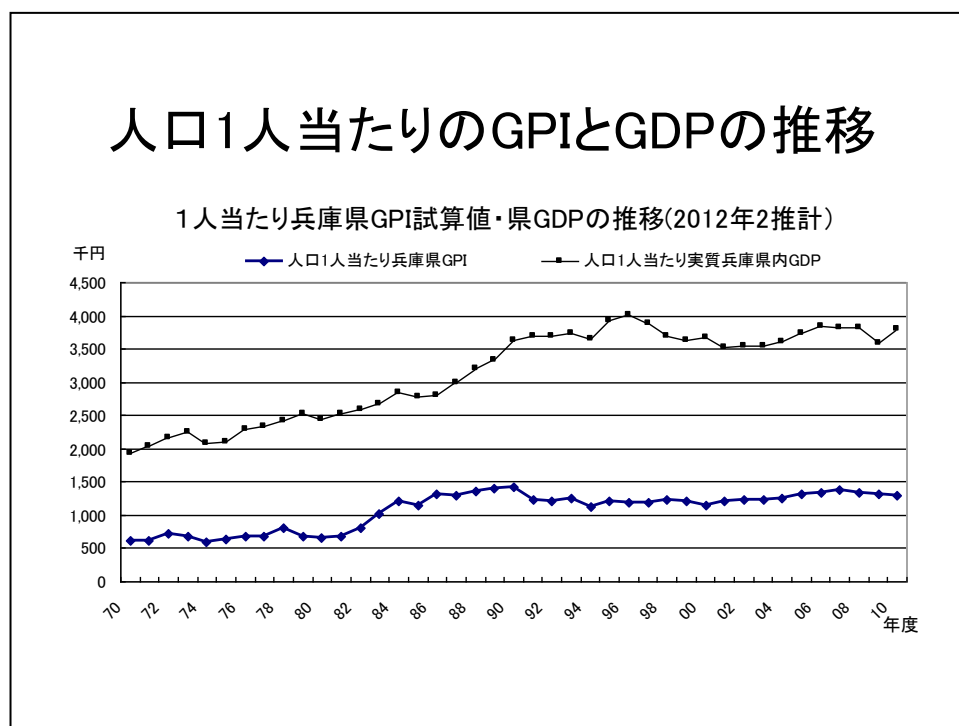
これをどう見るかです。経済分野のデータは、普段我々が見ることができます。環境分野は70年代に悪化していて、その後(80年代)以降、改善しています。社会データは近年、少し悪化の傾向が見られます。従来、経済分野のデータを見るが多かったのですが、少し加工し、環境分野や社会分野のデータを加えることで、また違った一面が見えるということなのです。

地域データを比較する場合、GDP総額で比べ場合は、人口1人当たりGDPで比較します。これはGDPとGPIのデータ比較ですが、これを見ると、GPIは、GDPほど上昇していません。（環境や社会分野を含めた）GPIの推移は、GDPの推移とは違った動きがこの指標で見られます。



我々が試算した試算方法の問題点は、金額換算に当たっての前提条件が非常に粗い方法で金額に換算しているということです。

また、個別指標の推計方法が、SNAのように（国際連合が定めた推計ルールにより）客観的に定められて推計方法に沿ったものではないことです。そのため、一部の個別データでは、加工データとして採用することは適当ではないという指摘がありました。



地域版GPIの長所と短所

1 長所:

金額により算出(GDPと比較可能)

社会・環境を考慮した社会実態の把握可能

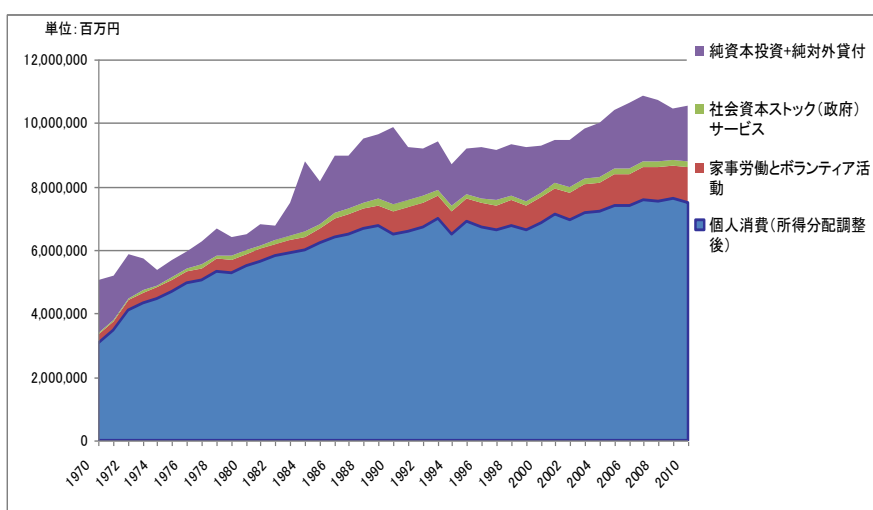
2 短所:

個別指標の選定及び金銭的測定方法が
確立されていない

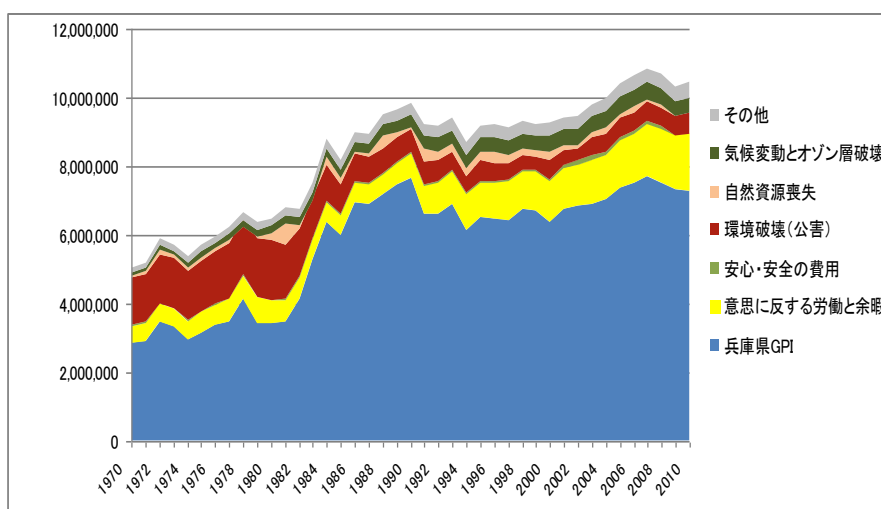
(客観的な推計方法が未確立)

もう少し個別の指標を紹介します。プラス要素は豊かさを増加させる指標で、例えば所得です。無償労働分が近年伸びています。次にマイナス要素ですが、地域の豊かさを減少させる指標で、環境分野と社会分野ではマイナス要素としています。たとえば、雇用・労働分野では、失業が増えてきていること、環境の悪化により環境分野では、マイナス要素が増えています。

分野別GPI(プラス要素)の推移



分野別GPI(マイナス要素)の推移



次に、金額データへの換算が、なかなか客観的に表わしにくいため、指数化により、この問題が取り除けるのではないかということで、改良版地域指数を試算しました。この地域指数は、兵庫県及び県内10地域別指数を試算しました。

2-2改良版兵庫県指数(研究会試算)

- ・地域の豊かさの状況を項目別に把握
(2000年度=100とした指数)
- ・推計期間:1990年度～2010年度
- ・推計地域:兵庫県
県内10地域(神戸市、阪神南地域、阪神北地域、東播磨地域、北播磨地域、中播磨地域、西播磨地域、但馬地域、丹波地域、淡路地域)
- ・統合ウエイト(2000年基準)
ウエイト:各個別指標均等(5/100)

15

兵庫県指数個別指標の概要

- 1 経済指標:所得金額、生活水準をあらわすデータ
- 2 社会指標:時間の利用、人的社会的資本のデータ
- 3 環境指標:蓄積量・排出量等自然資本のデータ

16

個別指標の分野は基本的には、G P I の分野に沿って、経済、社会、環境という3分野の指標について、それぞれを指数化することにより、これまでの動きをあらわそうというものです。具体的には、多くのデータのうち、関連性が高い20指標を選択し指数を作成しました。

また、指標の中では逆サイクルといって、豊かさと反比例して個別指標が増えるものがあります。例えば、刑法犯認知件数は、犯罪が増えればいいかという悪い方向ですから、それは逆サイクルになります。個別指標の性質により経済データの加工に一定のルールを決めました。

個別指標(20指標)の概要

項目	ウェイト	項目	関連指標	逆 サイクル	備考
1)時間の利用	20	5 1)市民・ボランティア活動	ボランティア価値		社会生活基本調査等から推計 社会生活基本調査等から推計 社会生活基本調査等から推計 毎月勤労統計調査
		5 2)無償の家事・育児労働	家事・育児・介護価値		
		5 3)余暇時間	3次活動時間		
		5 4)有償労働時間	総労働時間		
2)生活水準	20	5 1)所得分配	個人所得(雇用者報酬・家計財産所得・個人企業所得)		県民経済計算 県民経済計算 国勢調査、労働力調査等から推計 県民意識調査(H7~)
		5 2)家計・金融面の安全と債務	貯蓄率(貯蓄額/可処分所得等)		
		5 3)経済的安全	労働力率		
		5 4)県民満足度	県民満足度		
3)人的・社会的資本	15	5 1)住民の健康	出生時平均余命	○	生命表 犯罪統計 学校基本調査
		5 2)安心と安全	刑法犯認知件数		
		5 3)住民の教育水準	大学進学率		
3-2)地域資源	10	5 1)観光資源	観光GDP(実質)		県民経済計算、観光動態統計等から推計
4)自然の資本	20	5 2)人的つながり	観光総入り込み数		県観光動態調査
		5 1)土壌と農業	農地面積		全国都道府県別面積調 兵庫県林務課調べ 漁業生産統計調査 水道施設現況調査等
		5 2)森林	林野面積		
		5 3)漁業と海洋資源	漁獲量		
5 4)水資源	水使用量				
5)環境破壊	15	5 1)固形廃棄物	一般・産業廃棄物排出量	○	兵庫県農政環境部調べ 兵庫県農政環境部調べ 自動車保険統計
		5 2)温室効果ガス排出	CO2排出量		
		5 3)交通(自動車事故等)	自動車事故費用		
合計	100	100			

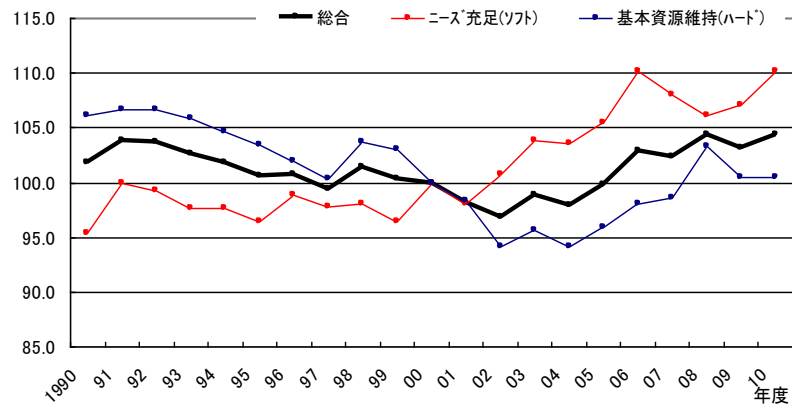
このグラフは兵庫県指数の動きです。ほかに(兵庫県内)10地域の指数を作成しました。地域ごとに作成した理由は、兵庫県では、(都市部と農山村部など)地域がかなり個性的で、県全体で見たときに全国平均値に近づき、個別の地域によっては、その個性と実感がずれるだろうということです。都市である神戸市の指標ですが、1994年度は、数値が大きく下がっている理由は、阪神・淡路大震災の発生(1995年1月)によるものです。

もう1つは、北の日本海に面している(非都市である)但馬地域です。この地域は神戸市と少し違った動きになっています。但馬地域は、1994年度に指数が少し上がり、翌年下がっています。但馬の祭典というイベントが1994年度にあって、1995年度は、それがなくなり反動減となりました。この地域は震災の影響は、ここは余り受けていません。

兵庫県指数の推移

2000年度=100

兵庫県指数の推移



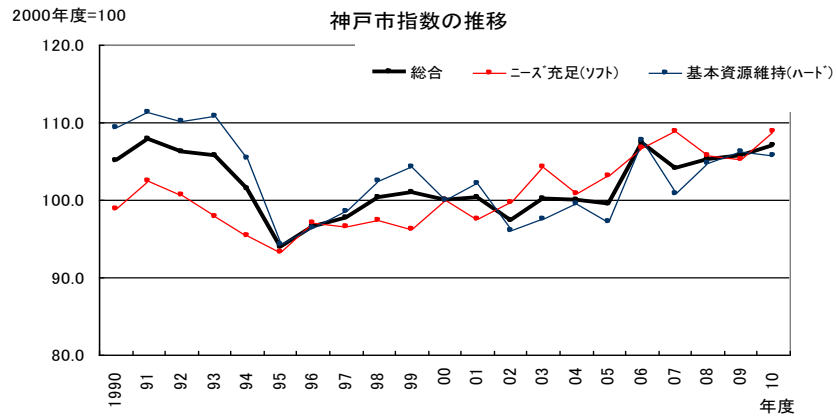
18

兵庫県指数の推移(2000年度=100)

年度	総合	ニース充足(ソフト)	基本資源維持(ハード)
1990	101.8	95.3	106.1
91	103.9	100.0	106.6
92	103.7	99.3	106.7
93	102.6	97.7	105.9
94	101.8	97.6	104.6
95	100.6	96.5	103.4
96	100.7	98.9	101.9
97	99.4	97.8	100.4
98	101.4	98.0	103.7
99	100.4	96.4	103.0
00	100.0	100.0	100.0
01	98.2	98.1	98.3
02	96.8	100.8	94.2
03	98.9	103.9	95.6
04	97.9	103.6	94.1
05	99.8	105.5	95.9
06	102.9	110.1	98.0
07	102.3	108.0	98.6
08	104.4	106.1	103.3
09	103.1	107.0	100.5
10	104.4	110.1	100.5

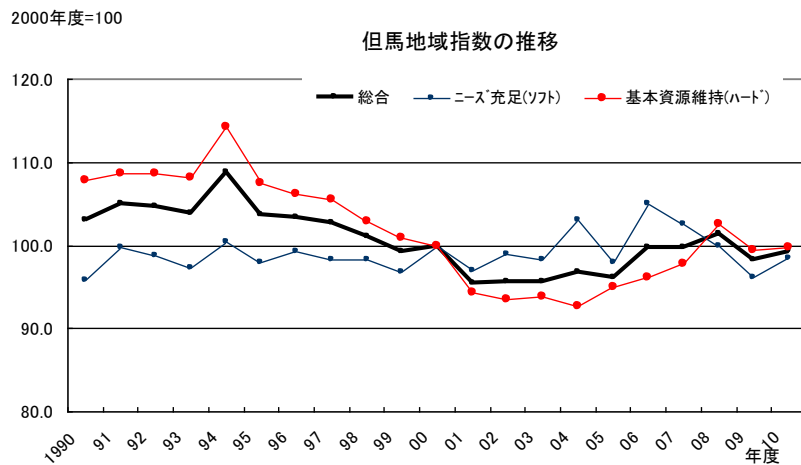
19

神戸市指数の推移



20

但馬地域指数の推移



21

以上のことを踏まえ、問題点を整理しました。地域の豊かさのイメージをあらわすデータを整理した統計表は、コア部分、サテライト部分、その他の3つに区分し整理することができます。地域の豊かさ指標は1つの統計表で、個別指標をあらわすことは問題です。

また、例え個別指標を指数にあらわしても（個別指標の）ウェイトがそれぞれ違い統一した基準で算定が困難です。そのため、共通部分、その周辺部分、あるいはそのどちらにもあわせない部分があり、それらを区分して個別に指標を推計する必要があります。地域の豊かさはダッシュボード方式で整理し、見る必要があります。たとえば、車を運転するとき、皆さんは（スピードメーターやオイルメーターなど）メーターをいろいろ見て運転していますが、そういったダッシュボード式でデータを整理し、それらを総合的に見ながら豊かさを把握していくべきではないかということです。

豊かさ指数表のイメージ

項目	1		2	3	4
	コア部門		サテライト部門		その他
	プラス	マイナス	指標群		
1 経済	所得金額		物々交換、贈答活動		自家生産物推計
2 社会	利用時間	拘束時間	祭等地域行事		無償労働時間推計
3 環境	環境蓄積量	排出量	環境蓄積評価		環境価値推計

22

最後に、地域力指標作成の取り組みを紹介します。「21世紀兵庫長期地域ビジョン」が（2011年12月に）改定されまして、それをフォローアップする指標として地域力指標の作成に現在取り組んでいます。具体的には、地域の豊かさをあらわす指標をつくらうというものです。これま「美しい兵庫」のデータベースがあったわけですが、それを少し可視化的なツール化ができないか検討をしています。

それから、地域資源については、外部からはわからないものだろうということで、地域の住民の参画と協働による指標を、実際に地域で議論し、新たな指標を具体化していくという県民参加型の指標づくりです。

3 地域力指標作成の取り組み

- ・豊かさを明らかにする指標づくり
「21世紀兵庫長期ビジョンー2040年への協働戦略」(平成23年12月策定)のフォローアップ
経済、環境、社会指標から地域の豊かさを明らかにする
- ・県民参加型の指標づくり
地域の強みとなる地域資源を住民主体で発掘、再発見し地域づくりの気運醸成につなぐ

23

「地域力指標」の構成案

- (1)地域の豊かさを表す指標づくり
 - ・地域力指数データベースの作成
 - ・地域の豊かさ可視化ツールの作成
- (2)地域資源数え上げ型指標づくり
 - ・住民の参画と協働により数え上げ
 - ・資源の発掘、再発見を通じ成果・進捗度を共有
 - ・把握プロセス、地域資源はデータベースに登載

24

地域の豊かさ指標の試算に向けて、問題点を3つあげています。1つは、地域データの比較には、客観的なデータが必要であるということです。そのため、(定められた)統計基準に沿ったデータ加工によりデータを作成することが必要です。

2つは、地域とってそれぞれの地域の個性があるため、地域全体あるいは特定集団の傾向や特徴をみる必要があります。ただし、仮に統合した指標とするため、個別のウェイトがそれぞれ違うため、それぞれの地域の現場でウェイトを決めて、新しい指標づくりのためシミュレーションをします。そのため、地域の現状を記録するデータが必要だということです。

3つは、将来の目標値の設定です。複数の個別指標を比較する場合、どうしても主観的な要素というのが入ってしまうため、比較が可能かどうかについて現場で確認する必要があります。データは、個別に収集された紙データだけに頼るものではなく、現場に出かけていき、そのデータがどのようにして作成されたか、データの作成過程について確認する必要があります。

地域の社会指標の試算に向けて

- 1 個別データの収集、加工によるデータ作成
→統計基準(SNA等)に沿ったデータ加工が必要
- 2 地域・特定集団の特徴、傾向の把握
個別指標ウェイトの把握、指標の試算など
→地域の現状記録等データ収集と傾向の確認
- 3 目標値の設定、実績値との乖離確認
達成度合いの評価、施策の立案など
→主観的な要素があるため、現場で確認が必要

25

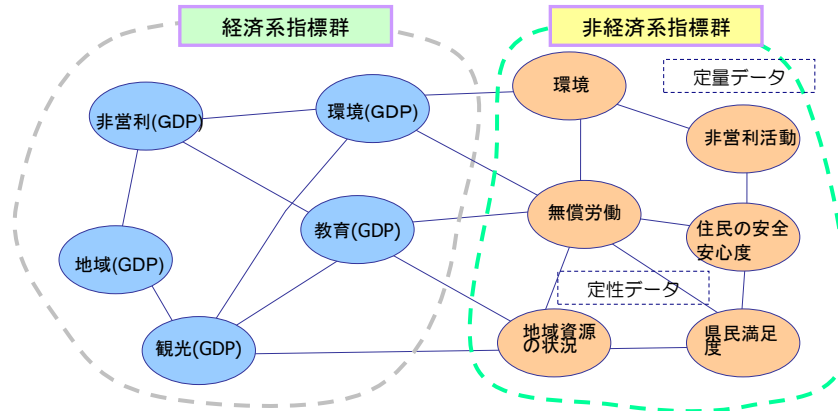
地域の豊かさを把握する指標群を図示したものです。左側が経済的指標群で、これは(SNA)サテライト勘定です。地域(勘定)のほか、環境、観光、非営利、教育といった勘定を統計の世界標準(SNAベース)で作成もしくは作成予定のものです。

このほか客観的なデータとして表しきれないものが非経済的指標群です。定量データのほか、定性データを地域の中から資源を発掘していこうというものです。(数値)データで表せないものの例として、写真などの視覚的なものも含めて把握すべきではないかという意見があります。

地域の豊かさを把握する指標群

経済系、非経済系のさまざまな分野の指標を作成、ネットワーク化し、地域の豊かさを総合的に表現する指標群を作成する

【イメージ図案】



26

最後に、新たな指標づくりに向けての課題です。1つは、指標を個別に把握し、個別ウェイトを作成し、1つの指標への統合を目指すことはかなり困難であろうという意見があります。指標を個別に見るのではなく、指標間のネットワークや関係性についてきちんと把握しておく必要があります。2つは、地域の特色をあらわす定性的な指標づくりです。地域力をあらわす（客観的）データのほか、写真や幾つかの地域の側面について多面的に確認できる指標が必要ではないかということです。3つは、個人に対する地域へ思いが浸透する指標づくりです。皆さんは、指標に対する地域に対する範囲は、多分、小学校区とか、小さな地域で見ているので、共通したイメージで評価していく指標が必要です。指標の評価に当たっては、最大値がいいのか、最適値がいいのかを考えます。例えば資源はどれだけ多くても資源量が持続しなければ、将来の先細りが考えられるため、最適値がよいという考え方があります。いずれにしても、県民が達成する共通の目標を集約し、その実現のために具体的にどのようなことを実施していくかをしっかりと確認していく必要があります。以上が、現時点で、我々の取り組んでいる事例の概要です。平成24年度は、地域力指標に作成に向けて、さらに検討していきたいと思っております。



今後の課題(新しい指標試算に向けて)

- 1 地域力を示す指標づくり
→個別指標のネットワーク化の検討
- 2 地域の特色を表す定性的指標づくり
→地域力を多面的に確認できる指標の検討
- 3 豊かさの個人への浸透する指標づくり
→特定地域(小地域等)試算・評価
データ評価例:最大値(または最小値)、
最適値、共通達成目標数等

27

7. 京都幸福指数の考え方と取り組み

電通総研 部長

京都経済同友会の指標作成担当

袖川 芳之

京都の幸福指標についてお話しさせていただきます。私は実は2005年の小泉政権のころに内閣府に2年間勤務していたことがあり、そのころに幸福の研究を始めました。先ほど内閣府の「豊かさ指数」がお話に出ましたが、「豊かさ指数（PLI）」の後に、「暮らし指数」というものが発表されていて、その計画にも参加しました。こういう指標づくりをしてきた関係で、京都の同友会が指標をつくるという時にお声掛けいただき、個人として参画しています。



まず、京都経済同友会さんが幸福指数をつくりたいとおっしゃったのですが、私は「幸福指標は、基本的にはつくれません。暮らし指数とか豊かさ指数もある意味で破綻してしまったのは、やはり1つの数字にまとめることに難があるということで、あまり過大な期待をしないでください」と申し上げました。

ただ、「前提条件を置けば可能な場合もある。例えば、指標の目的とか課題意識が明快であれば、それに沿って指標を作ることはできるかもしれません」と申し上げました。

もう1つは、限定された集団の中、つまりある程度、幸福の志向性なり形なりが共通している人々の間であれば出来るのではないかと思います。

それから、幸福指数がなぜ必要なのかということですが、「人々の欲望の対象がGDPで計れないものやお金で買えないものに最近移ってきている」ことが背景にあるだろうと思っています。今、人々が最も求めているものは何かというと、「地域、職場、家族」といった高度経済成長時代に人々が依存していた集団が今崩れてきたために、それに代わって、何か自分の影響力を発揮できる帰属集団を持つこと、これを「自己効力圏」と名づけていますが、この「自己効力圏」を持つことが、今人々の中で優先順位の高い欲望として上がってきているのではないかと思います。

例えば、最新の『国民生活に関する世論調査』によると、生活満足度が65.4%になっています。震災後の去年の2011年の10月に調査された数値ですが、東日本大震災の前年よりも1.7ポイント上がっています。これだけ厳しい社会であったにもかかわらず幸福度が上がるというのはなぜかということ、恐らく人々が社会の中に「課題」を見つけることができたからだだと思います。自分が何かに参画できる、そういう場ができてきた。そのことに

対して幸福度が上がったのではないかと考えています。これは、「自己効力圏」が社会のいろいろなところで発生し始めているということなのではないかということです。

それからもう1つ強調しておきたいのは、幸福指数はGDPに代わるものなのかどうかということです。昨年もNHKの番組で幸福について取り上げられていたのですが、冒頭に「幸福指数はGDPに代わる指数である」というようなことをおっしゃっていましたが、それは違うだろうと思いました。決して幸福指数はGDPに代わるものではなくて、あくまでもGDPを補完して、包括的な指数にするものであると考えています。

1. 基本的な考え方

1) 幸福指数の作成は可能か

- **目的や課題意識**があれば作成できる。
- 利害をある程度共有している**限定された集団内**であれば作れる

2) 幸福指数はなぜ必要か

- 人々の欲望の対象がGDPで測れないものやお金で買えないものへの比重が高まってきた
- 最も求めているのは、「地域、職場、家族」に代わって、自分の影響力が及ぶ「**自己効力圏**」を持つこと

3) 幸福指数はGDPに代わるものか

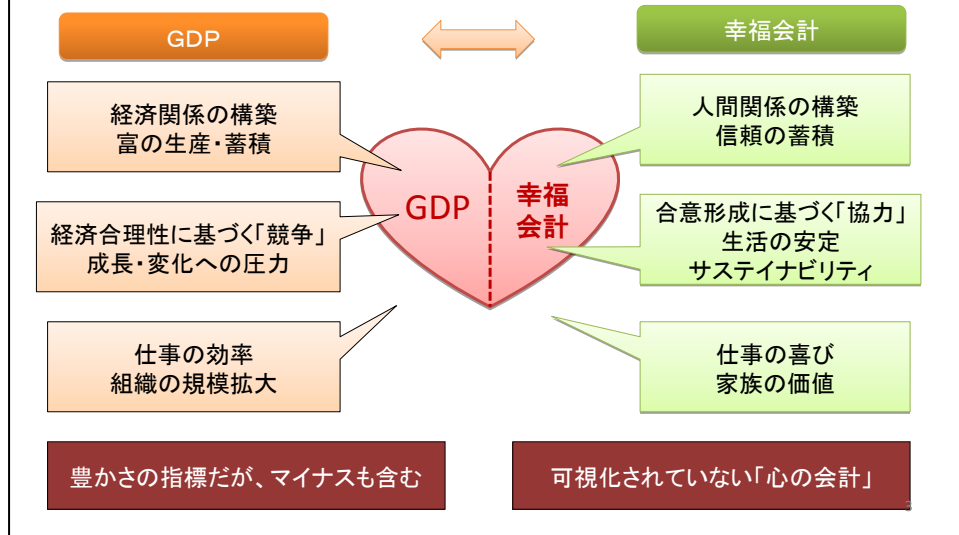
- **NO!** GDPを補完し、GDPをより包括的な指数にするもの

2

すなわち、幸福というのは1つの包括的な概念ですから、GDPに測っているものと測っていないものを想定した場合、今まで測られていなかった心の会計部分を足して考えていくというのが、幸福指数の考え方ではないかと考えています。GDPには経済関係の構築、あるいは富の生産の蓄積のような目的は測れるわけですが、人間関係の構築とか信頼の蓄積は全く測れません。それから経済合理性に基づく競争とか、成長変化へのドライブは測れますが、合意形成に基づく協力とか、生活の安定、サステナビリティは測れません。それから仕事の効率とか組織の規模拡大は測れますが、仕事の喜びとか家族の価値については測れません。これを足して、より包括的に完璧な指数にしようということではないかと考えています。

2. 幸福会計で幸福感を補完する

「幸福会計」を加えることで、人々が求めるものが包括的に捉えられる



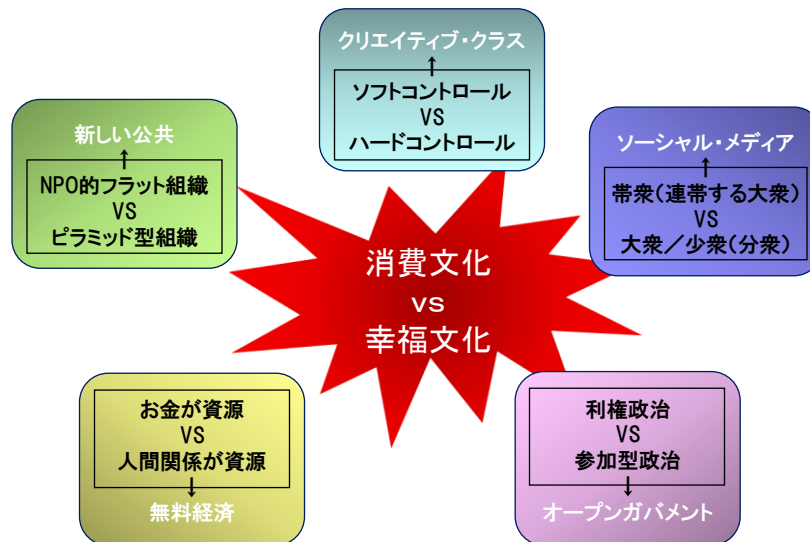
今、外見は似ているけれども、中身が全然違うというものがたくさんあります。例えば、働き方では、組織の中でがちがちに規則に従いながら働くハードコントロールの職場と、より自由に能力を発揮できるように働くソフトコントロールによる職場があり、後者はクリエイティブ・クラスとしての働き方に合っています。メディアでも、大衆メディアから、しだいにソーシャル・メディアになってきている。同じ政治でも、利権政治から、オバマさんが08年の選挙で人気を得たように、参加型の政治という、全く違った政治を始めています。

ビジネスのリソースでも、お金が資源となり、そこに人が集まっていたわけですが、今は人間関係が集まるところに更に集まってくるという関係になっています。

組織のあり方もピラミッド型の組織ではなくて、NPOのようなフラットな組織の方が好まれています。いわゆる成長時代の消費文化と、これからの幸福文化が軋みあっているのが今の状況で、よりこの幸福文化の方に人々に注目して欲しいと、そういう気持ちが幸福指標には込められていると思います。

4. カルチャー・クラッシュ

中身が違う事象が混在しているが、外見が似ているので変化が見えにくい



5

そこで、この幸福の形を何とかとらえられないだろうかということで、実験的に調査を実施しております。これは京都市の中で実施したものです。

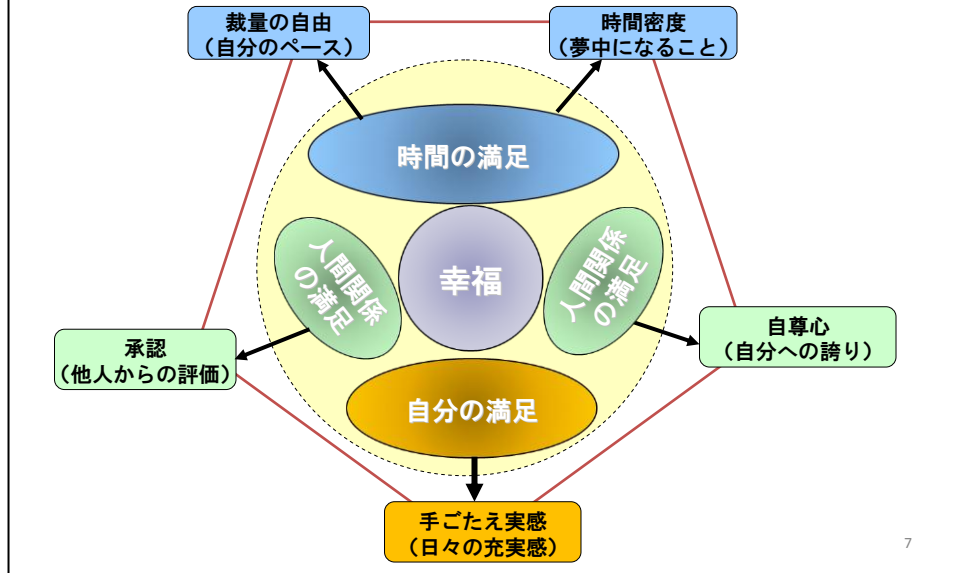
枠組みが2つありまして、1つ目が幸福のペンタゴンモデルです。今までの幸福感は「自分の満足」が幸福を決定するものであるというように考えられていたわけですが、このペンタゴン



モデルでは、これに「時間の満足」と「人間関係の満足」という要素を足していきます。時間の満足は「時間密度」と自分の時間を自由に使える自由である「裁量の自由」からなり、人間関係の満足は「承認」と「自尊心」からなります。そして最終的にそれが自分の「手ごたえ」として総括されているという形で幸福をとらえてみようということです。

5. 幸福のペンタゴンモデル

その人の最終的な幸福感の源泉がどこにあるのかを
5つの指標で評価・分析するためのフレーム

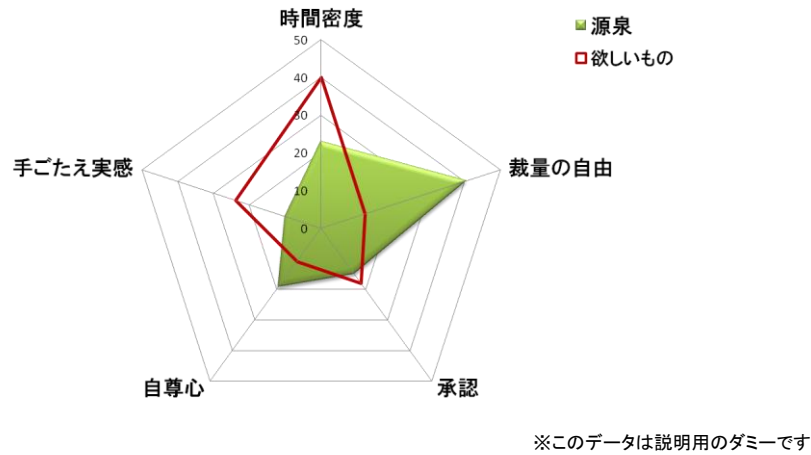


この5つの要素を具体的な調査項目に表現して調査でとらえてみると、以下の図のような形になるわけです。裁量の自由では「好きなときに好きなことができる」とか、「自分のペースで物事を進められる」とか、幾つかの質問に答えてもらって、その結果を平均しているわけです。大体今の日本人の幸福感はこのような形だと思っています。裁量の自由が突出していて、でも時間の密度、夢中になることとか、わくわくするものが少ないとか、承認が少ないとか、結果として手ごたえが余りないという形になると思います。

それでは次に、「今のあなたの状況にどのようなことが加われば、より幸せになるでしょうか」ということを、同じ項目で同時に聞きます。すると、より時間密度、夢中になるものが欲しいとか、手ごたえが欲しいというようなことが出てくるのが、今の日本人の平均的な感じですか。

6. ペンタゴンモデル分析による幸福のカタチ

自分の幸福の源泉となっているものと、今後幸福のために欲しいもの(不足しているもの)を可視化します。

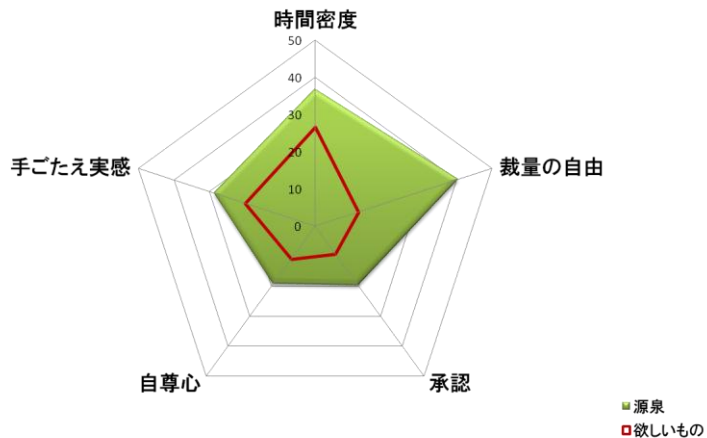


8

が、これを実際に京都でやってみたらどうなったかという、京都は、やはり非常に恵まれた都市だと思いました。バランスよく5つの項目に幸福感が広がっています。幸福の要素として欲しいものを示した赤い線が緑の領域の中にあるということは、より幸せになるためには、今あるものをもっと増やしていけば幸せになるけれども、要素的には同じものだという状況を示しています。

7. 京都人の幸福のカタチ

・全体的にバランスが良く、欲しいものよりも既に得ているものの方が多い。
・人間関係の満足がやや低得点である。

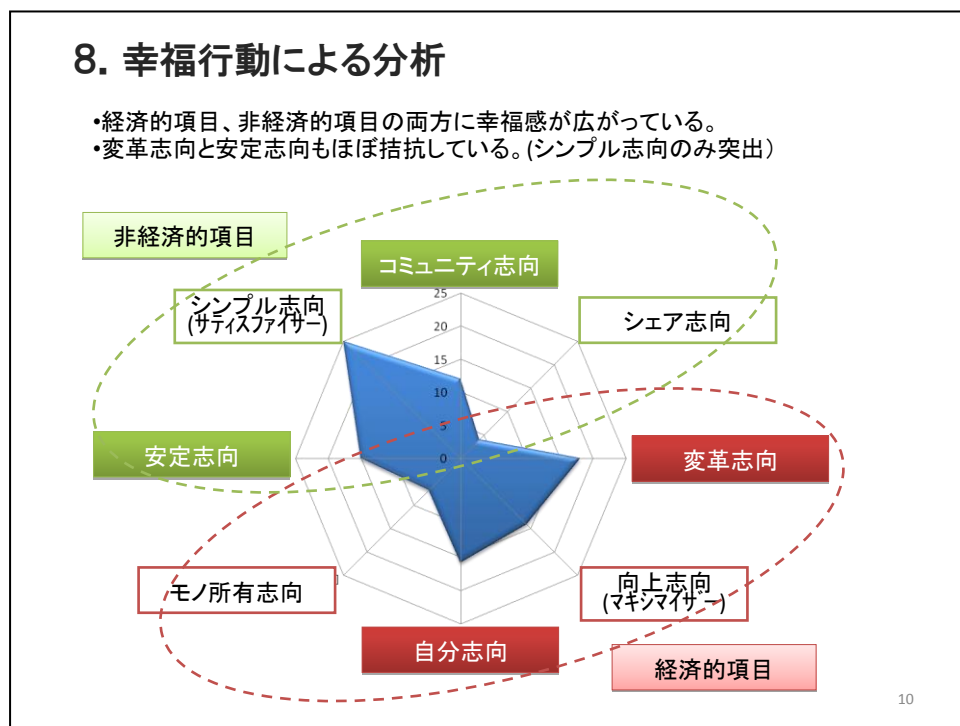


9

しかし、これだけでは詳細な分析ができないので、もう1つフレームをつくりました。このフレームは、どんなことができれば、あなたは幸せでしょうかということを聞いています。これは「幸福行動による指標分析」と呼んでいて、4つの軸を作っています。基本になるのは縦軸と横軸の2つですが、縦軸は「コミュニティ志向」と「自分志向」という軸です。自分の幸福を追求したいか、みんなが幸せになるかという軸です。それから横のほうは、「変革志向」と「安定志向」、社会を変えていきたいか、より今の状況を安定させたいかということです。

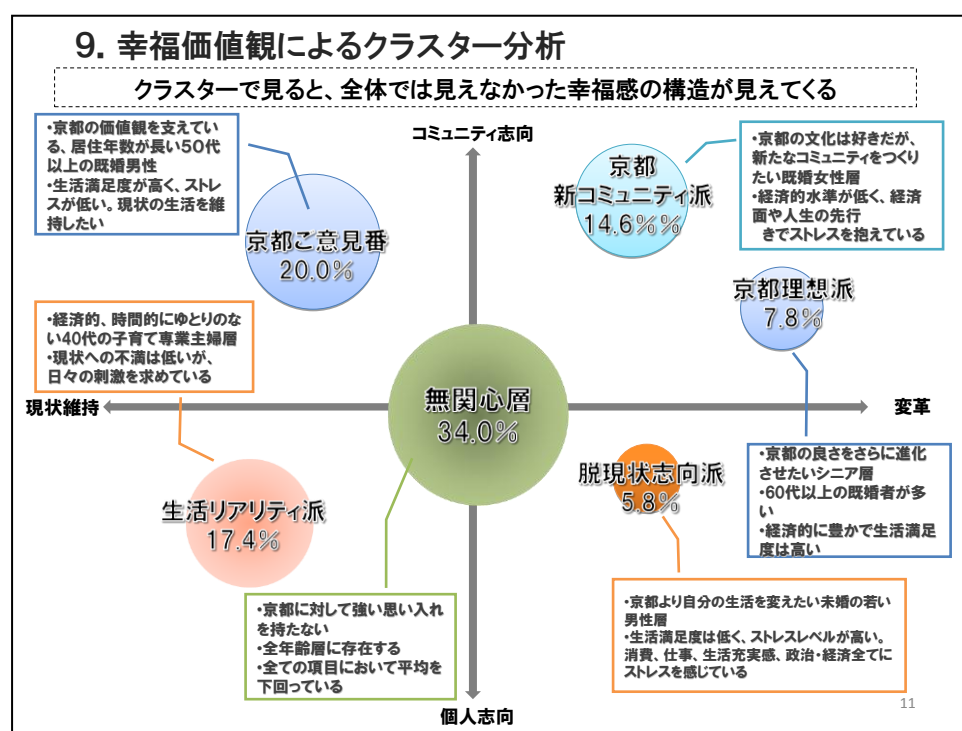
この間に2軸を設けておきまして、右上から左下のほうは、シェアをした方がよいという「シェア志向」か、もっと物を自分で持ちたいという「モノ所有志向」か。最後の軸が「シンプル志向」と「向上志向」です。シンプル志向のほうはサティスファイサー、向上志向のほうはマキシマイザーと呼ばれています。マキシマイザーは、少しでもよいもの、ワンランク上のものを持ちたいというものです。サティスファイサーはそこそこのもので良いという志向性です。この4軸8項目で評価するわけです。ちなみに、幸福論の中では、マキシマイザーよりもサティスファイサーのほうが幸せになりやすいということが言われています。

これで見ると、京都市の実際の調査の結果は青い領域で示された以下のようなものになりました。「シンプル志向」が突出しているわけですが、「コミュニティ志向」なのか「自分志向」なのかというのは、点数的にはそれほどに差がありません。それから「変革志向」か「安定志向」かについても、あまり変わりがありません。



このままではまだ幸福感を高める方法の方向性見えません。京都市という狭い領域であっても、やはりライフステージによって幸福感が違いますし、それぞれの状況によっても変わってきます。そこで、もう少しブレークダウンして見るために、クラスター分析を行いました。ここではクラスターが6つ出てきました。そのクラスターをそれぞれのどのような幸せ感を持った人々がいるかということのマッピングしたものが下の図です。

調査結果では、変革派として3つのクラスターが出てきます。「京都コミュニティ派」は既婚の女性が多く、新たに京都にコミュニティをつくりたいという人です。「京都理想派」は、京都に長く住んでいるけれども、京都をこれから変えていきたいと考えるシニア層の方です。「脱現状志向派」というのは、若い20代の人々であり収入も高くなく、現状から脱出したいと考えている人です。「京都ご意見番」は、安定志向の方にいますが、京都の価値を支えているようなシニアの方々です。「生活リアリティ派」は、専業主婦の40代の方を中心とした層です。このように年齢とか、置かれている状況によって、幸福度が変わってきます。「無関心派」は全年齢層にわたり、全体の大体3分の1ぐらいいました。



同様の調査を鳥取県でも実施しましたが、大体、変革層が3つ、安定層が2つ出てきて、無関心層が全体の3分の1ぐらい出てきた構造は非常に似ていました。こういう構造は日本のどこをとってもほぼ同様に出てくるのではないのでしょうか。

10. クラスタ分析から見えること

3つの変革層、2つの保守層、1つの無関心層

<変化志向>

- 進化・・・60~70代のシニア
- コミュニティづくり・・・30~40代の既婚女性
- 破壊と革新・・・20代未婚男性

<安定志向>

- 番人・・・50~60代既婚男性
- 生活手いっぱい・・・20~30代専業主婦
- 無関心・・・全体の3分の1。全世代に分布

12

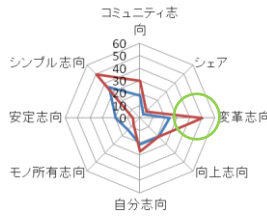
変革の方向は、今のものをより進化させていきたいという方向で、これはシニア層に多くなっています。それから新たにコミュニティをつくりたいという30~40代の既婚女性層がいます。それからもっと破壊と革新をしていけというのが20代未婚層、こういう3つのタイプが必ず出てきます。

それぞれの層ごとに見ていくと、このように幸せの形が全く違っています。この違いをどう組み合わせて、京都全体の幸福を高めていくストーリーをつくるかということだと思います。

「生活リアリティ層」と「脱現志向」は親和性があります。この2つを組み合わせるためには、例えばソーシャルビジネスのようなものを起こしていけば、新たにコミュニティをつくりたいということと、京都のよさをもっと活かしていくということで、結びつけられるのではないのでしょうか。

11. 変革3クラスターの方向性

京都新コミュニティ派
変革・非経済系

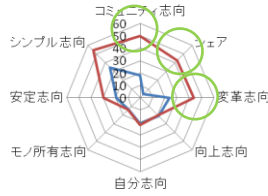


新しいコミュニティづくり

<歓迎する政策>

- 人間関係の煩わしさの軽減
- 生活コストの低減
- 京都居住者の既得権益を抑えて、寛容性のある開かれた街づくり

京都理想派
変革・非経済系

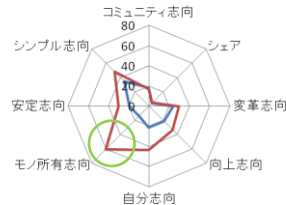


京都の良さの進化

<歓迎する政策>

- 京都を日本人の心のふるさとに
- 公共交通機関の整備
- 教育水準を高める
- 多少の切捨てはしかたがない

脱現状志向派
生活変化・経済系



最先端への革新

<歓迎する政策>

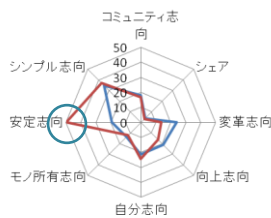
- 公共交通機関の整備
- 伝統文化の振興による産業の振興
- 国際会議やスポーツイベントの誘致
- 起業環境整備など雇用の創造

13

それから、「脱現状志向」と「京都理想派」の方は、例えば京都にはお坊さんがいたり、大学の先生がいたり、職人さんがいたり、いろいろな先生がいます。そういう方々が京都の競争力を語るような京都カレッジというようなものを作って、それを若い人に伝えてイノベーションを起こしていくという方向でこの2つを結びつけられるのだろうと思います。その方向性で、京都全体の幸福感を高めるということができないのではないかと思います。無関心派はどこに行くかというのは今のところちょっとわかりません。

12. 非変革3クラスターの方向性

京都ご意見番
バランス系

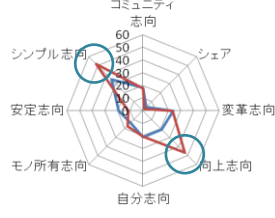


今の価値を守る

<歓迎する政策>

- 京都を日本人の心のふるさとに

生活リアリティ派
バランス系



洗練された生活

<歓迎する政策>

- ショッピングセンター、ファッション情報、レジャー施設など、余暇・消費の充実
- 子育てしやすい環境
- 教育水準を高める

無関心層
バランス系



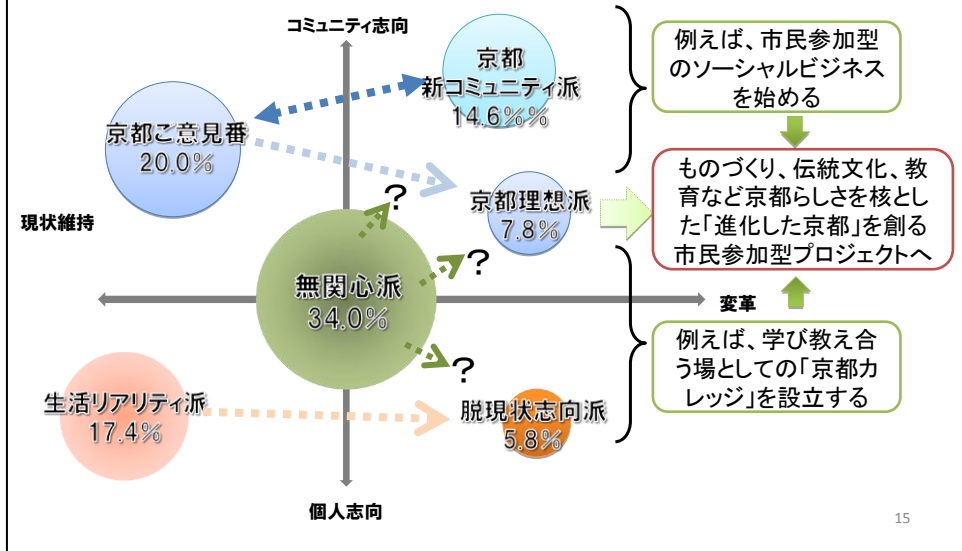
内向き志向

京都に対する参加意識が全般的に低い

14

13. 全体の幸福感を高めるストーリーづくり

- ・それぞれの幸福感を組み合わせ、全体の幸福感を高めていく。
- ・人々の「自己効力圏」を作れるように政策のストーリーを住民と共有する。



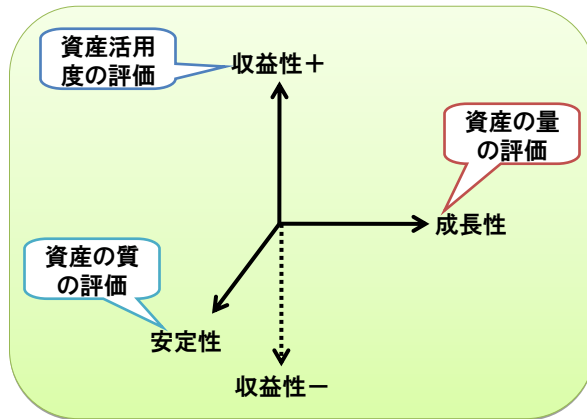
こういう考え方をもとに、今、京都経済同友会の中で幸福指標をつくらうとしており、安定性、成長性、それから収益性という3つの軸で考えているところです。安定、成長、収益性というのは、先ほど荒川区のご説明にありましたようにアウトプットではなくアウトカムということです。ですから、今ある資源をどれだけ活用できているかということになるので、プラスにもマイナスにもなります。必ずしも右肩上がりに上がっていくということではなく、下がることもあります。また視点数が同じでも中身の質を見ていく、そういう指標を今考えている段階でございます。

14. 今後の指標づくりに向けて

幸福会計
「心の会計」を可視化する



「3つの指標」で量と質を把握する



16

【参考】会場の様子



